

## 第 1 回 静岡県立高等学校の在り方に関する基本計画策定委員会

## 参考資料

・ 県内高等学校の変遷	1
・ 学区別中学校卒業生数の推移	2
・ 中学校卒業後の進路状況	3
・ 令和 5 年度募集学級数別学校一覧（公立全日制課程）	4
・ 地区別の高等学校（全日制課程）学科別設置状況	5
・ 県立教育施設の配置	6
（旧賀茂学区の状況）	7
（旧田方地区の状況）	8
（旧沼駿学区の状況）	9
（旧富士学区の状況）	11
（旧静岡・清庵学区の状況）	12
（旧志榛学区の状況）	14
（旧小笠学区の状況）	15
（旧磐周学区の状況）	16
（旧西遠学区の状況）	17
・ 魅力ある高校づくりに向けた研究	19
・ 中間一貫教育の状況	21
・ 地域産業を支える実学奨励事業	23
・ 県立高等学校における総合学科の状況	25
・ 定時制・通信制課程の教育	27
・ インクルーシブ教育システムに基づく「共生・共育」の推進	31
・ 県立高等学校への県外からの入学（令和 5 年度入学者選抜制度）	33
・ 県立高等学校の在り方に係る地域協議会	34
・ 適正規模の考え方	36
・ オンラインを活用した多様な学びに対応するシステム構築について	38
・ 中山間地等の小規模校への支援	39
・ 中山間地域の小規模高における遠隔教育推進事業	40
・ 県立川根高等学校における川根留学の取組	42
・ 県立伊豆総合高等学校土肥分校の魅力化	44
・ 県立浜松湖北高等学校佐久間分校の魅力化	46
・ 教職員の研修	47
・ 社会人の任用	51
・ 公立学校施設における空調（冷房）設備設置状況	52
・ 公立学校施設のトイレ状況	58



## 県内高等学校の変遷

卒業年 (昭和 平成 令和)	1951 (S26)	1961 (S36)	1963 (S38)	1971 (S46)	1989 (H1)	2000 (H12)	2005 (H17)	2006 (H18)	2008 (H20)	2010 (H22)	2015 (H27)	2021 (R3)	2023 (R5)
中卒者数 (万人)	5.3	4.3	7.6	5.1	6.3	4.6	3.8	3.7	3.6	3.5	3.5	3.2	3.2
高校進学率 (除 通信制)	42.8%	58.6%	64.6%	84.3%	92.8%	94.6%	95.2%	95.5%	95.6%	95.5%	95.6%	93.5%	(集計中)
公私別 生徒受入 割合		75:25		69:31	67:33	67:33	67:—	67:—	67:—	67:—	67:—	65:—	(集計中)
公私別 受入実績	83:17	74:26	69:31	66:34	66:34	68:32	68:32	67:33	67:33	67:33	67:33	62:38	(集計中)
長期計画等	<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>県立高等学校長期計画 (H12.2策定)</p> <p>第二次長期計画 (H17.3策定)</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>第三次長期計画 (H30.3策定)</p> </div> </div>												
年度	S26	S36	S38	S46	H1	H12	H17	H18	H20	H22	H27	R3	R5
公立高校数 (分校)	62 (13)	71 (9)	79 (7)	87 (3)	104 (1)	105 (1)	105 (1)	103 (2)	101 (2)	99 (2)	92 (3)	90 (5)	89 (4)
								① 農経+城南 →浜松大平台[H18] ② 伊東城ヶ崎 →伊東高校分校 [H18] ※[ ]内は開校年度	③ 下南+下北 →下田[H20] ④ 清工+静工 →科学技術[H20]	⑤ 森+周智 →遠江総合[H21] ⑥ 大仁+修工 →伊豆総合[H22]	⑦ 静南+静市商 →県立駿河総合[H25] ⑧ 大井川+吉田 →清流館[H26] ⑨ 天竜林業+二俣 + 廣野(分校)[H26] →天竜+天竜春野校舎 ⑩ 引佐+気賀+三ヶ日 →浜松湖北[H27]	・土肥 →伊豆総合高校分校 [H29] ・佐久間 →浜松湖北高校分校 [H29]	・伊東+伊東城ヶ崎 分校+伊東商業 →伊豆伊東[R5]
私立高校数	28	30	33	36	43	42	42	43	43	43	44	44	44

※1：公立高校数は分校を含まない、( ) 内の分校数は外数 ※2：令和5年度現在、公立高校89校の内訳は県立84校、市立5校



# 中学校卒業後の進路状況

上段：令和4年3月卒業生数  
 (下段：平成29年3月卒業生数)

**県内中学校等卒業生 32,748人**  
 (35,112人) ▲2,364人

**高等学校等進学率 (通信制含む)**  
 32,229人 (98.4%)  
 (34,655人 (98.7%)) ▲2,426人

<b>県内全日制高校</b> 28,861人 (31,877人) ▲3,016人	県内定時制高校 569人 (766人)	県内高専 182人 (188人)	県内特別支援 413人 (394人)	県外 386人 (394人)	通信制 1,818人 (1,036人)	専修学校等 116人 (83人)	就職等 403人 (374人)
--	---------------------------	------------------------	--------------------------	----------------------	---------------------------	------------------------	-----------------------

通信制の進路内訳:  
 県内 464人 (280人)  
 県外(広域通信制) 1,354人 (756人)

**公立高校**  
 18,178人 (63.0%)  
 (21,565人 (67.7%)) ▲3,387人

**私立高校**  
 10,683人 (37.0%)  
 (10,312人 (32.3%))

以下、1年在籍者数で表示  
 (過年度生、転入、転出、県外出入を含む)

11,356人 (1年在籍)  
 (10,941人)

普通科 8,785人 (76.7%) (8,366人 (76.5%))	専門学科 2,438人 (22.0%) (2,421人 (22.1%))	総合学科 133人 (1.3%) (154人 (1.4%))
---	--	--------------------------------------

18,281人 (1年在籍)  
 (21,705人)

普通科 11,488人 (62.9%) (13,619人 (62.7%))	専門学科 5,285人 (28.8%) (6,256人 (28.8%))	総合学科 1,508人 (8.3%) (1,830人 (8.4%))
---	--	--

## 令和5年度募集学級数別学校一覧（公立全日制課程）

	1学級	2学級	3学級	4学級	5学級	6学級	7学級	8学級	9学級	10学級	計
賀茂	(南伊豆分)	松崎		下田							4校
		稲取									9学級
田方	(土肥分)	熱海		伊豆総合	田方農業	伊豆伊東	韭山				9校
				伊豆中央	三島南		三島北				41学級
沼駿			小山	御殿場南	沼津西		沼津東				10校
			沼津城北	裾野	沼津工業						44学級
			御殿場		沼津商業						
					市立沼津						
富士				富士宮西	吉原	富士市立	富士				9校
				吉原工業	富岳館						46学級
					富士東						
					富士宮東						
					富士宮北						
清庵				清水南		清水桜が丘	清水東				4校
				清水西							21学級
静岡			静岡西			静岡農業	静岡東	静岡			9校
						駿河総合		科学技術			58学級
						静岡商業		静岡市立			
						静岡城北					
志榛		川根	相良	藤枝西	島田商業		藤枝東				12校
				藤枝北	焼津水産		焼津中央				57学級
					榛原						
					島田						
					島田工業						
					清流館						
小笠			池新田		掛川工業			掛川西			6校
			横須賀		小笠						29学級
					掛川東						
磐周	(佐久間分)			袋井商業	磐田農業	磐田北	袋井	磐田南			10校
	(春野校舎)				天竜	磐田西					48学級
					遠江総合						
西遠				浜松大平台	浜松江之島	浜松西	浜松湖東	浜松東	浜松南		17校
				湖西			浜松城北工業	浜松湖南	浜名		121学級
				新居			浜北西	浜松商業	浜松工業		
								浜松湖北	浜松北		
								浜松市立			
計	4校	4校	7校	15校	24校	10校	12校	9校	5校		90校

※ 網掛け部分は、募集学級数の増減があった学校

480学級

普通科等	職業学科					その他(家庭、福祉)	職業学科計	総合学科	計
	農業	工業	商業	水産					
314	19	47	46	5	5	122	38	474	

## 地区別の高等学校（全日制課程）学科別設置状況

設置状況一覧（令和5年度現在）

各学科の上段：公立、下段：私立

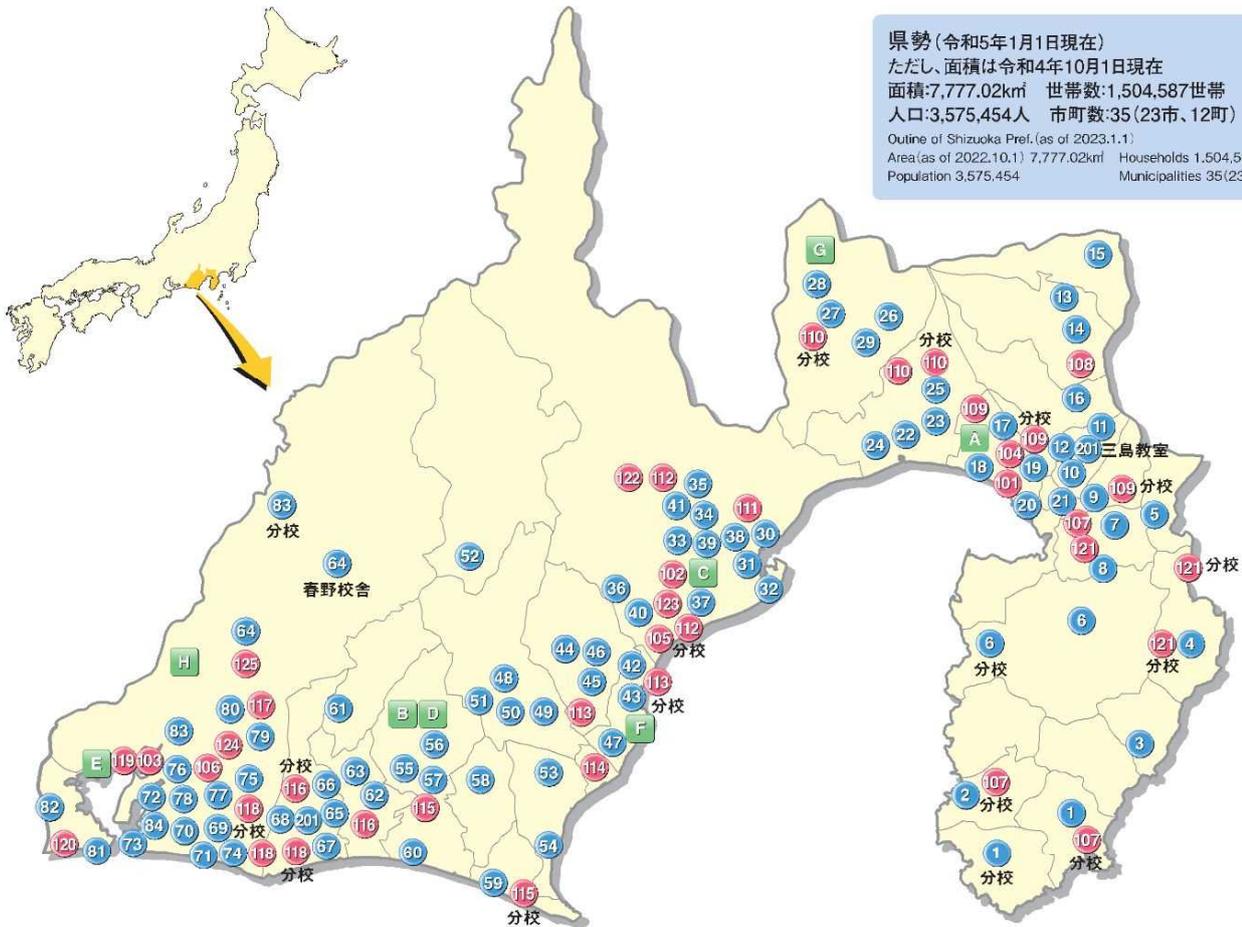
		全 日 制 の 課 程		
学 科		東 部	中 部	西 部
普 通 科		下田、松崎、稲取、伊豆伊東、熱海、土肥分校、韮山、伊豆中央、三島南、三島北、御殿場南、小山、沼津東、沼津西、沼津城北、市立沼津、吉原、富士、富士東、富士宮東、富士宮北、富士宮西 <b>(公立 22 校)</b>	清水東、清水西、清水南、静岡市立清水桜が丘、静岡、静岡城北、静岡東、静岡西、静岡市立、焼津中央、清流館、藤枝東、藤枝西、島田、金谷、川根、榛原、相良 <b>(公立 18 校)</b>	掛川東、掛川西、池新田、横須賀、袋井、春野校舎、佐久間分校、磐田南、磐田北、磐田西、浜松北、浜松西、浜松南、浜松湖東、浜松東、浜松湖南、浜松湖北、浜松江之島、浜名、浜北西、新居、湖西、浜松市立 <b>(公立 23 校)</b>
		不二聖心、御殿場西、知徳、日大三島、誠恵、加藤学園、加藤学園暁秀、沼津中央、飛龍、桐陽、富士見、星陵 <b>(私立 12 校)</b>	東海大静岡翔洋、清水国際静岡カレッジ、静岡大成、静岡雙葉、常葉大常葉、静岡英和、静岡聖光、静岡女子、城南静岡、常葉大橋、静岡北、藤枝明誠、藤枝順心、島田樟誠 <b>(私立 15 校)</b>	常葉大菊川、菊川南陵、磐田東、西遠女子、浜松学院、浜松聖星、浜松日体、浜松開誠館、浜松修学舎、浜松学芸、聖隷クリスファー、オイスカ <b>(私立 12 校)</b>
総合学科		伊豆総合、裾野、富岳館 <b>(公立 3 校)</b>	駿河総合、藤枝北 <b>(公立 2 校)</b> 焼津 <b>(私立 1 校)</b>	小笠、遠江総合、天竜、浜松大平台 <b>(公立 4 校)</b>
専 門 学 科	農業	南伊豆分校、田方農業 <b>(公立 2 校)</b>	静岡農業 <b>(公立 1 校)</b>	磐田農業、天竜、浜松湖北 <b>(公立 3 校)</b>
	工業	伊豆総合、御殿場、沼津工業、吉原工業 <b>(公立 4 校)</b> 飛龍 <b>(私立 1 校)</b>	科学技術、島田工業 <b>(公立 2 校)</b> 静岡清 <b>(私立 1 校)</b>	掛川工業、浜松工業、浜松城北工業、浜松湖北 <b>(公立 4 校)</b>
	商業	伊豆伊東、御殿場、沼津商業、富士市立、富士宮北 <b>(公立 5 校)</b> 知徳 <b>(私立 1 校)</b>	静岡市立清水桜が丘、静岡商業、島田商業、相良 <b>(公立 4 校)</b> 清水国際、静岡女子、城南静岡 <b>(私立 3 校)</b>	袋井商業、磐田西、浜松東、浜松商業、浜松湖北 <b>(公立 5 校)</b> 浜松啓陽 <b>(私立 1 校)</b>
	水産		焼津水産 <b>(公立 1 校)</b>	
	家庭	御殿場 <b>(公立 1 校)</b> 知徳 <b>(私立 1 校)</b>	静岡女子 <b>(私立 1 校)</b>	
	福祉	富士宮東 <b>(公立 1 校)</b> 知徳 <b>(私立 1 校)</b>	清流館 <b>(公立 1 校)</b> 静岡女子 <b>(私立 1 校)</b>	磐田北、天竜 <b>(公立 2 校)</b>
	英語			浜松湖南 <b>(公立 1 校)</b>
	英数	星陵 <b>(私立 1 校)</b>	常葉橋、藤枝明誠 <b>(私立 2 校)</b>	磐田東、聖隷クリスファー <b>(私立 2 校)</b>
	理数	下田、韮山、沼津東、富士 <b>(公立 4 校)</b>	清水東、科学技術、静岡市立、榛原 <b>(公立 4 校)</b> 静岡北 <b>(私立 1 校)</b>	掛川西、磐田南、浜松南 <b>(公立 3 校)</b>
	国際	吉原 <b>(公立 1 校)</b>	静岡城北 <b>(公立 1 校)</b> 静岡北 <b>(私立 1 校)</b>	浜松北 <b>(公立 1 校)</b>
	芸術	沼津西 <b>(公立 1 校)</b>	清水南 <b>(公立 1 校)</b>	浜松江之島 <b>(公立 1 校)</b> 常葉大菊川、浜松学芸 <b>(私立 2 校)</b>
	体育	富士市立 <b>(公立 1 校)</b>		
	その他	富士市立 (総合探究科) <b>(公立 1 校)</b>	静岡学園 (教養科学科)、静岡 (文理探究科) <b>(私立 2 校)</b>	浜松修学舎 (看護科) <b>(私立 1 校)</b>

※普通科、専門学科の併置校は重複して掲載

※公立の分校・校舎5校を含む

# 県立教育施設の配置

Location of Prefectural Educational Facilities



県勢(令和5年1月1日現在)  
 ただし、面積は令和4年10月1日現在  
 面積:7,777.02km<sup>2</sup> 世帯数:1,504,587世帯  
 人口:3,575,454人 市町数:35(23市、12町)  
 Outline of Shizuoka Pref.(as of 2023.1.1)  
 Area(as of 2022.10.1) 7,777.02km<sup>2</sup> Households 1,504,587  
 Population 3,575,454 Municipalities 35(23cities, 12towns)

(令和5年4月1日現在 / as of 2023.4.1)

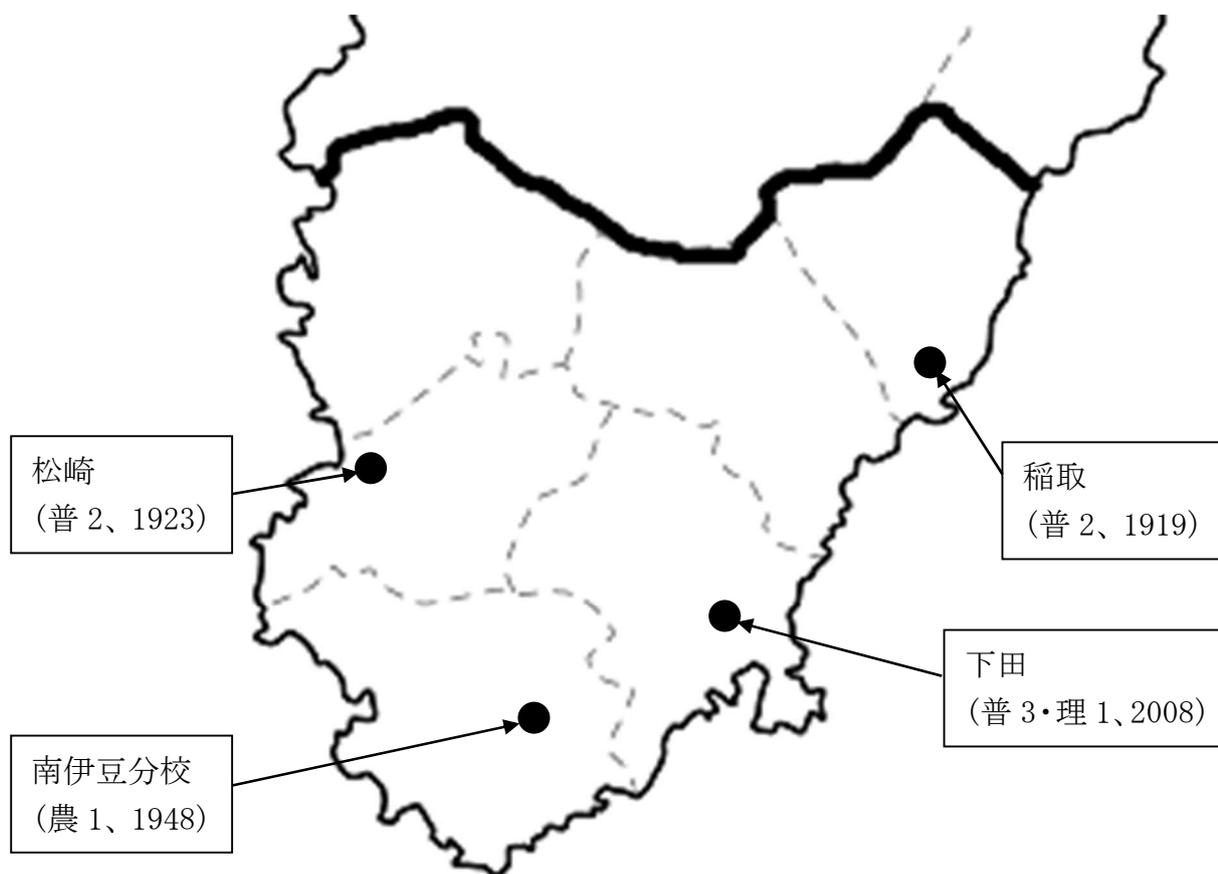
A	静東教育事務所 Seitou Local Education Office
B	静西教育事務所 Seisei Local Education Office
C	県立中央図書館 Prefectural Central Library
D	県総合教育センター Comprehensive Education Center
E	県立三ヶ日青年の家 Mikkabi Youth Center
F	県立焼津青少年の家 Yaizu Youth & Children's Center
G	県立朝霧野外活動センター Asagiri Field Activity Center
H	県立観音山少年自然の家 Kannonyama Children's Nature Center

高等学校 Senior High Schools	20 沼津工業	42 焼津中央	64 天竜	中学校(高等学校中等部) Junior High Schools	111 清水
1 下田	21 沼津商業	43 焼津水産	” 春野校舎	32 清水南中等部	112 静岡北
” 南伊豆分校	22 吉原	44 藤枝東	65 磐田南	70 浜松西中等部	” 南の丘分校
2 松崎	23 吉原工業	45 藤枝西	66 磐田北	中学校(夜間中学) Evening Classes of High/Lower High Schools	113 藤枝
3 稲取	24 富士	46 藤枝北	67 磐田農業	201 ふじのくに中学校磐田本校	” 焼津分校
4 伊豆伊東	25 富士東	47 清流館	68 磐田西	” 三島教室	114 吉田
5 熱海	26 富士宮東	48 島田	69 浜松北	特別支援学校 Special Needs Education Schools	115 掛川
6 伊豆総合	27 富士宮北	49 島田工業	70 浜松西	101 沼津視覚	” 御前崎分校
” 土肥分校	28 富士宮西	50 島田商業	71 浜松南	102 静岡視覚	116 袋井
7 葦山	29 富岳館	51 金谷	72 浜松湖東	103 浜松視覚	” 磐田見付分校
8 伊豆中央	30 清水東	52 川根	73 浜松湖南	104 沼津聴覚	117 浜北
9 田方農業	31 清水西	53 榛原	74 浜松江之島	105 静岡聴覚	118 浜松
10 三島南	32 清水南	54 相良	75 浜松東	106 浜松聴覚	” 磐田分校
11 三島北	33 静岡	55 掛川東	76 浜松工業	107 伊豆の国	” 城北分校
12 三島長陵	34 静岡城北	56 掛川西	77 浜松城北工業	” 伊豆下田分校	119 浜松みをつくし
13 御殿場	35 静岡東	57 掛川工業	78 浜松商業	” 伊豆松崎分校	120 浜名
14 御殿場南	36 静岡西	58 小笠	79 浜名	108 御殿場	121 東部
15 小山	37 駿河総合	59 池新田	80 浜北西	109 沼津	” 伊東分校
16 裾野	38 静岡農業	60 横須賀	81 新居	” 伊豆田方分校	” 伊豆高原分校
17 沼津東	39 科学技術	61 遠江総合	82 湖西	” 愛鷹分校	122 中央
18 沼津西	40 静岡商業	62 袋井	83 浜松湖北	110 富士	123 静岡南部
19 沼津城北	41 静岡中央	63 袋井商業	” 佐久間分校	” 富士宮分校	124 西部
			84 浜松大平台	” 富士東分校	125 天竜

## 地区別学校配置図（旧学区別）

（旧賀茂学区の状況）

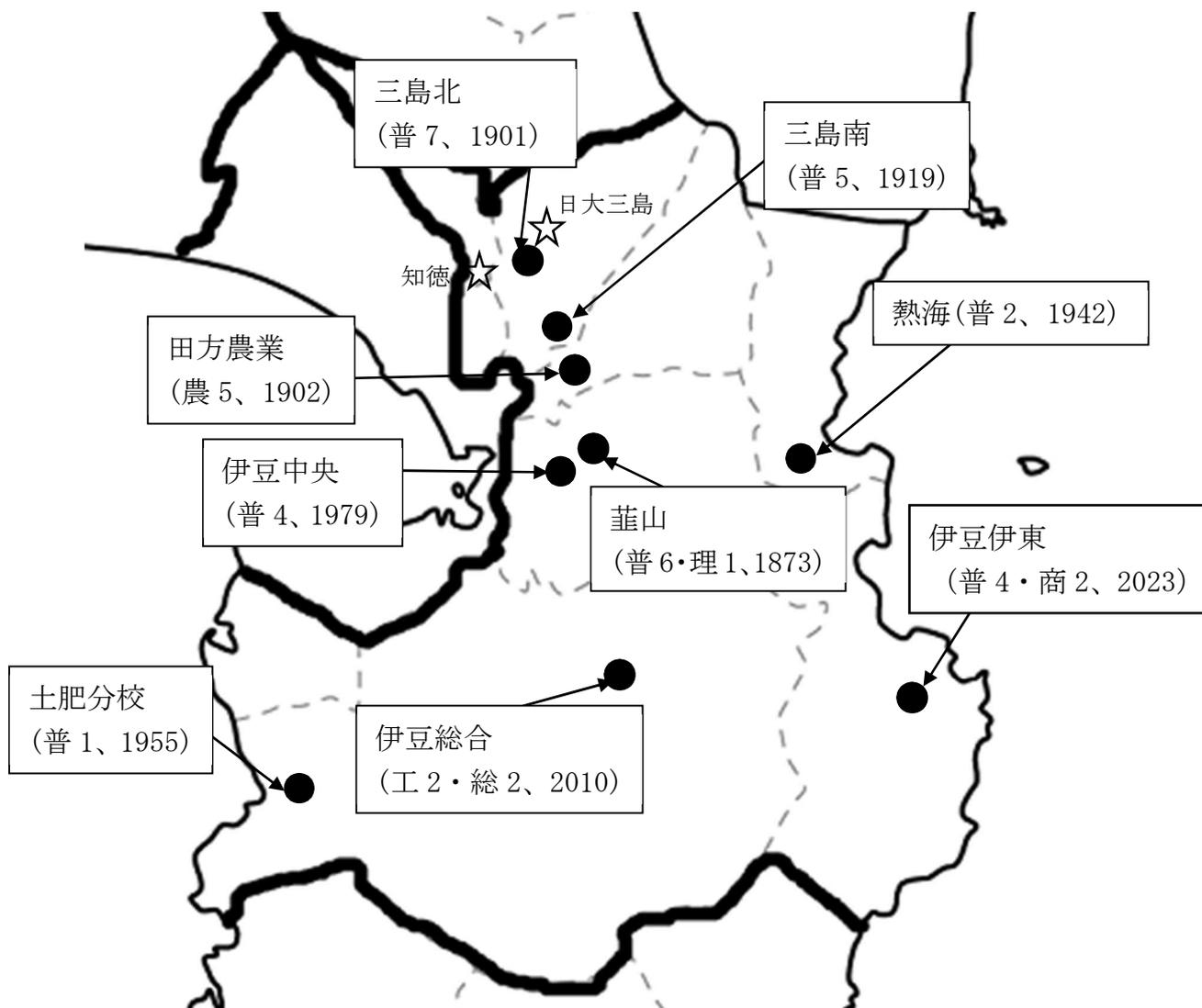
※（ ）は設置学科・R5 募集学級数、開校年を示す



学校名	学科名・R5募集学級数				第三次計画	備考
	普通	普専	職専	総合		
下田	3	理1				第一次計画再編
南伊豆分校			農1			
松崎	2					特支分校
稲取	2					
R5 募集学級数計 = 9c1						
R5 学校数計 = 4 校						

(旧田方学区の状況)

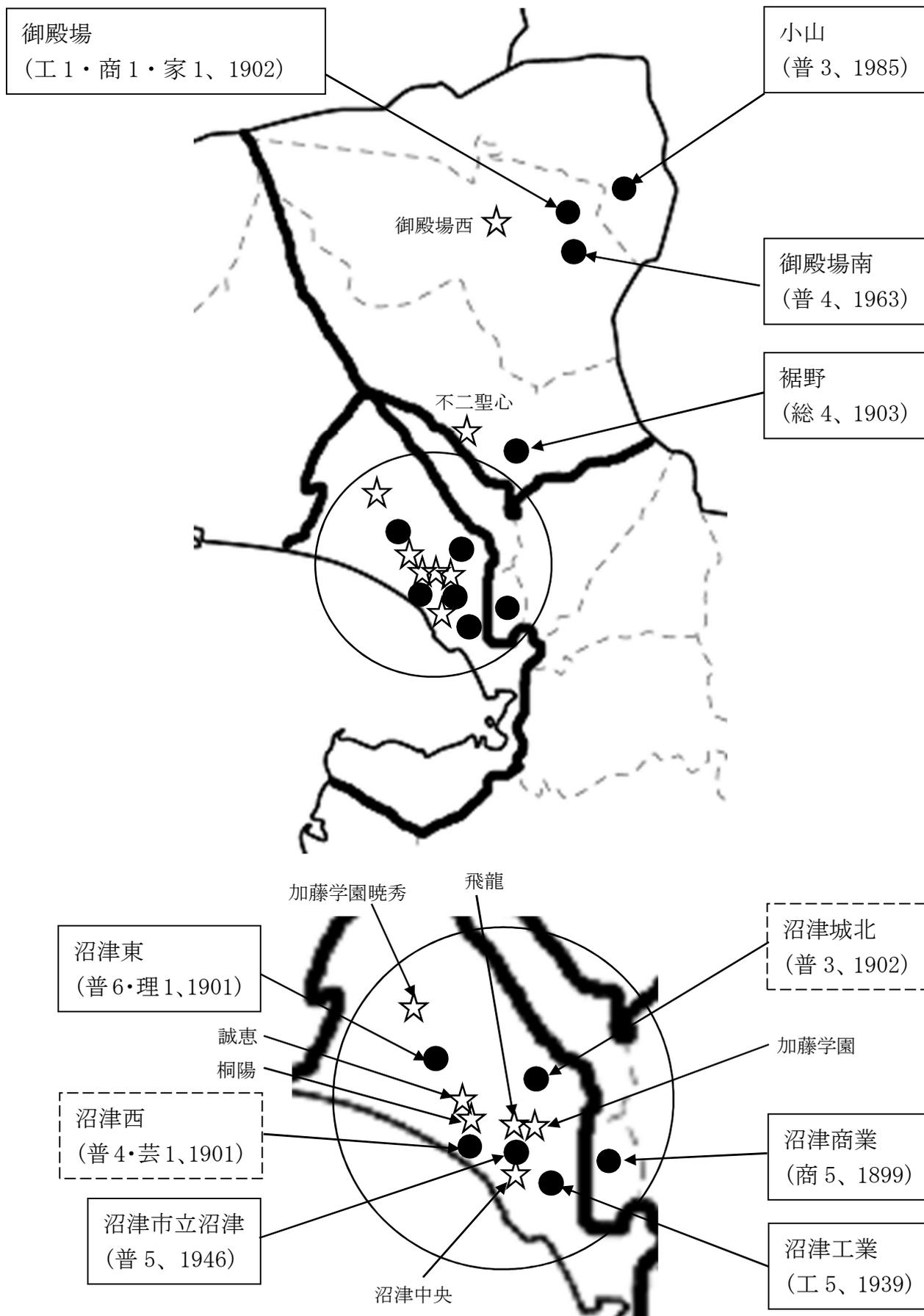
※ ( ) は設置学科・R5 募集学級数、開校年を示す



学校名	学科名・R5募集学級数				第三次計画	備考
	普通	普専	職専	総合		
伊豆伊東	4		商2			特支分校
熱海	2					
伊豆総合			工2	2		第一次計画再編
土肥分校	1					
三島	6	理1				
伊豆中央	4					
田方農業			農5			特支分校
三島南	5					
三島北	7					
R5 募集学級数計 = 41cl						
R5 学校数計 = 9 校						

(旧沼駿学区の状況)

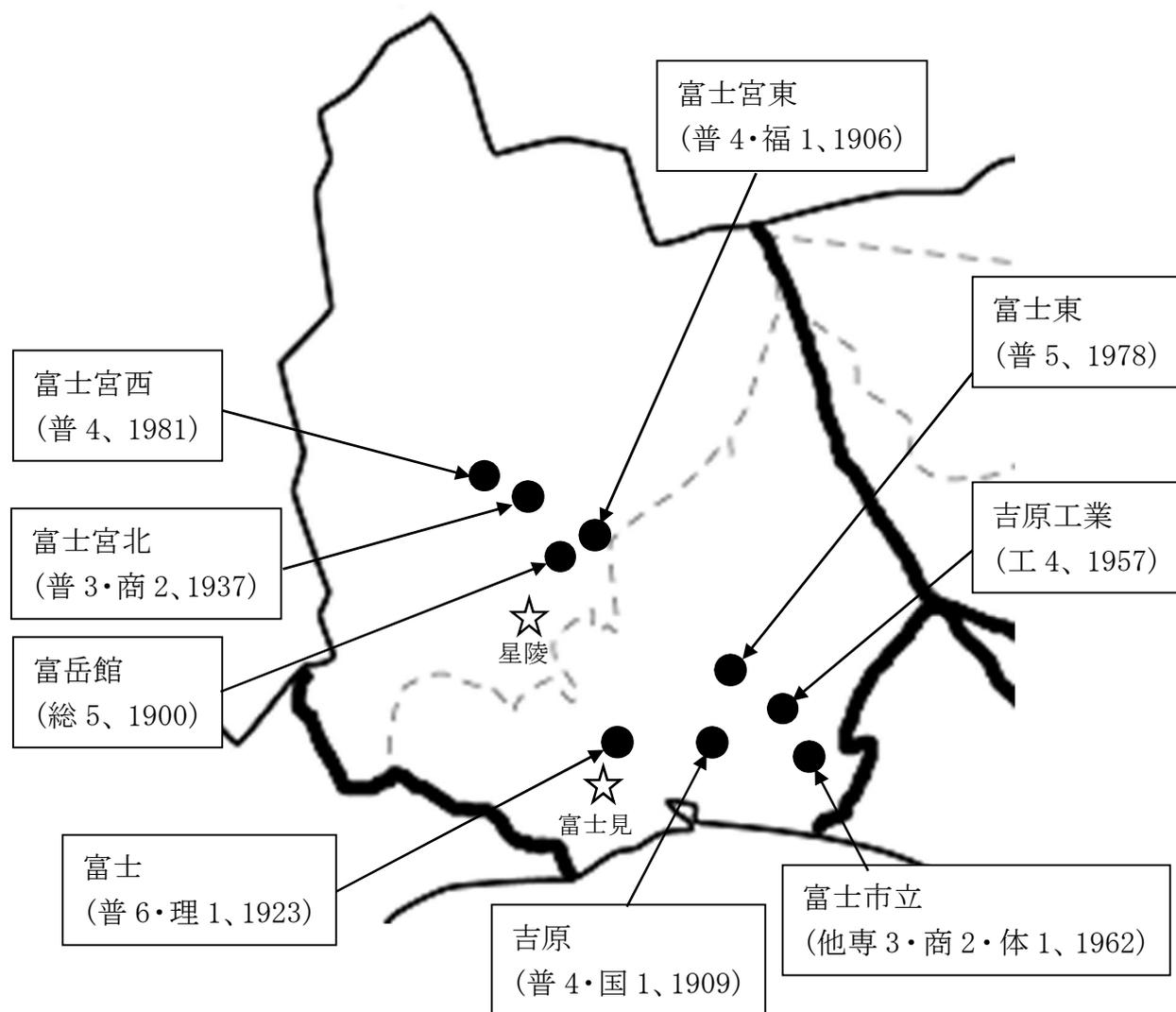
※ ( ) は設置学科・R5 募集学級数、開校年を示す



学校名	学科名・R5募集学級数				第三次計画	備考
	普通	普専	職専	総合		
御殿場			工1商1家1			
御殿場南	4					
小山	3					
裾野				4		改築済(長寿命化)
沼津東	6	理1				
沼津西	4	芸1				
沼津城北	3					特支分校
沼津工業			工5			R1改築開始
沼津商業			商5			R2改築開始
沼津市立沼津	5					中等部
R5 募 集 学 級 数 計 = 44c1						
R5 学 校 数 計 = 10 校						

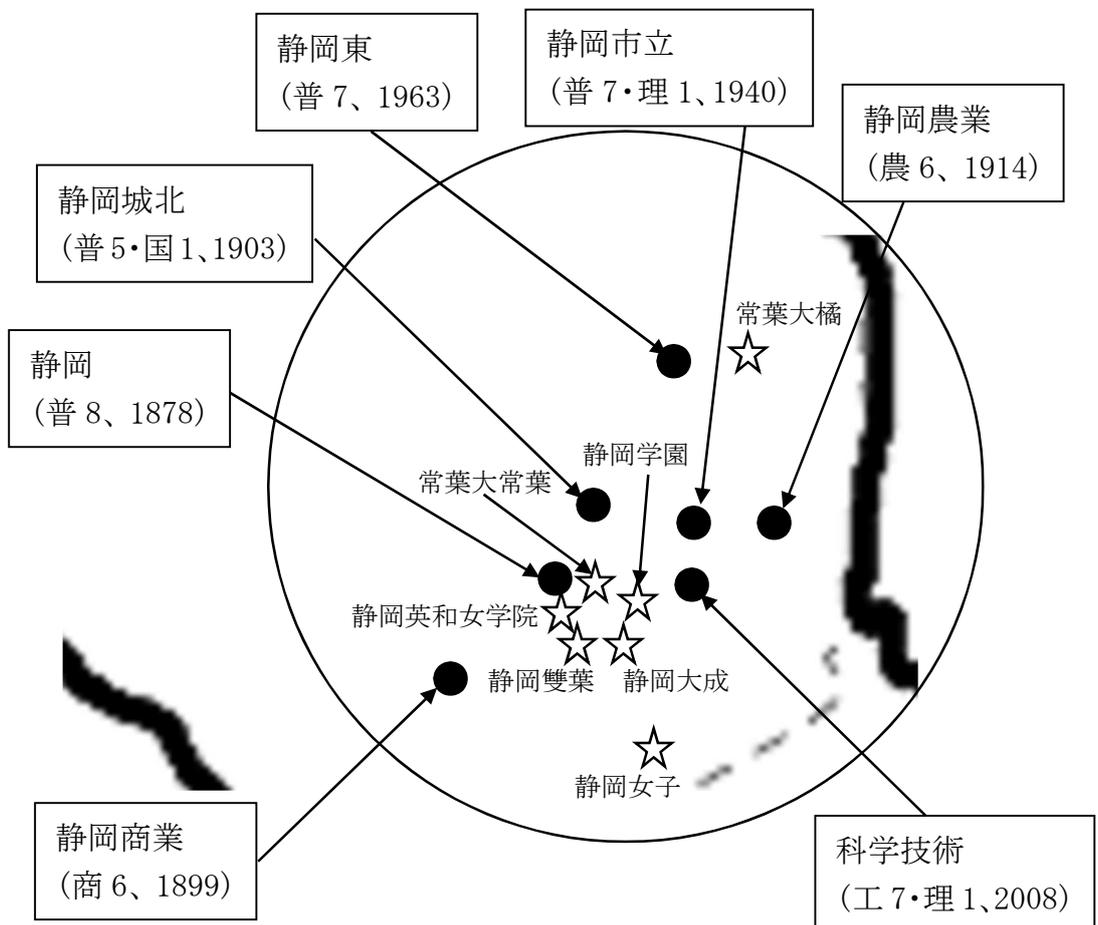
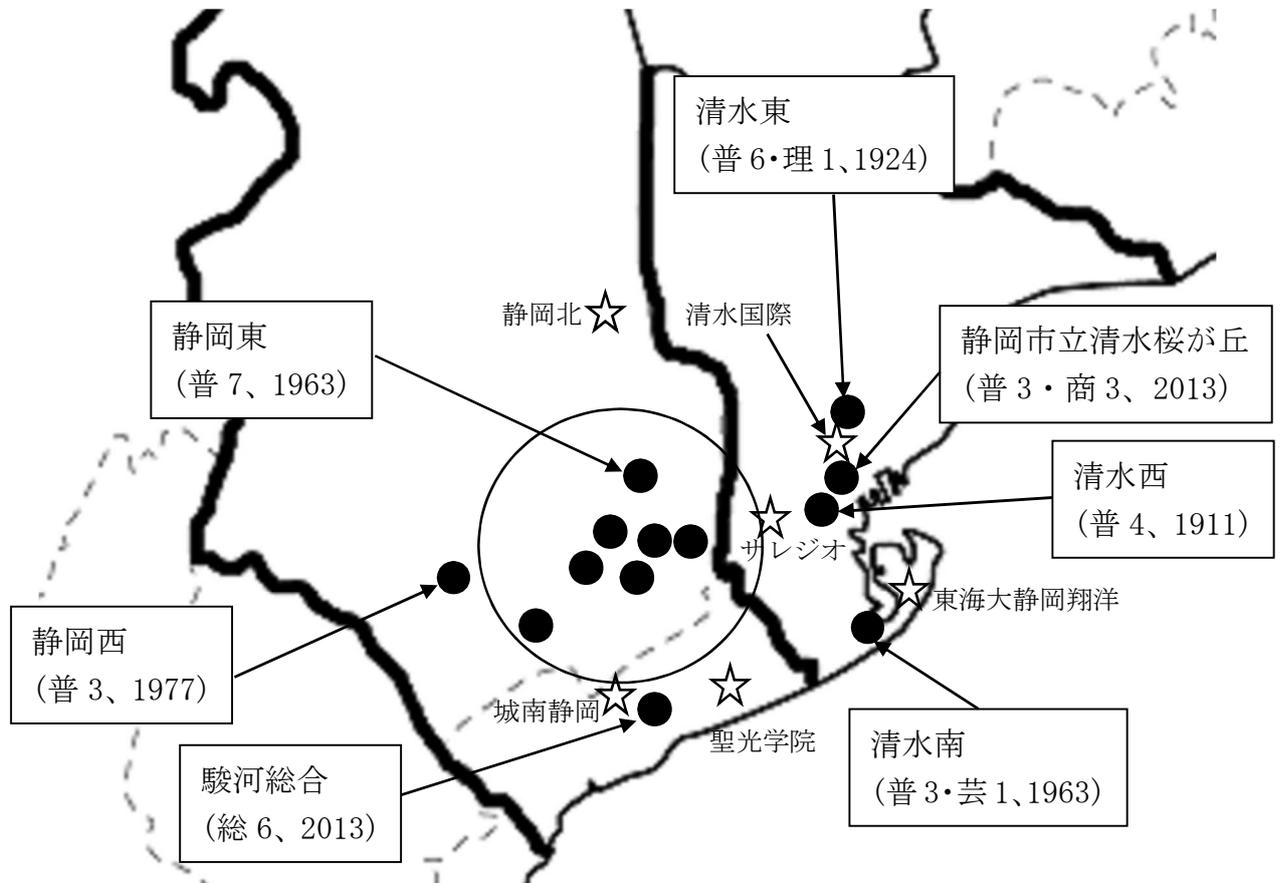
(旧富士学区の状況)

※ ( ) は設置学科・R5 募集学級数、開校年を示す



学校名	学科名・R5募集学級数				第三次計画	備考
	普通	普専	職専	総合		
吉原	4	国1				
吉原工業			工4			
富士	6	理1				
富士東	5					
富士宮東	4		福1			R3改築開始
富士宮北	3		商2			R3改築開始、特支分校
富士宮西	4					
富岳館				5		
富士市立		他3体1	商2			
R5 募集学級数計 = 46c1						
R5 学校数計 = 9 校						

(旧静岡・清庵学区の状況) ※ ( ) は設置学科・R5 募集学級数、開校年を示す



## (旧清庵学区)

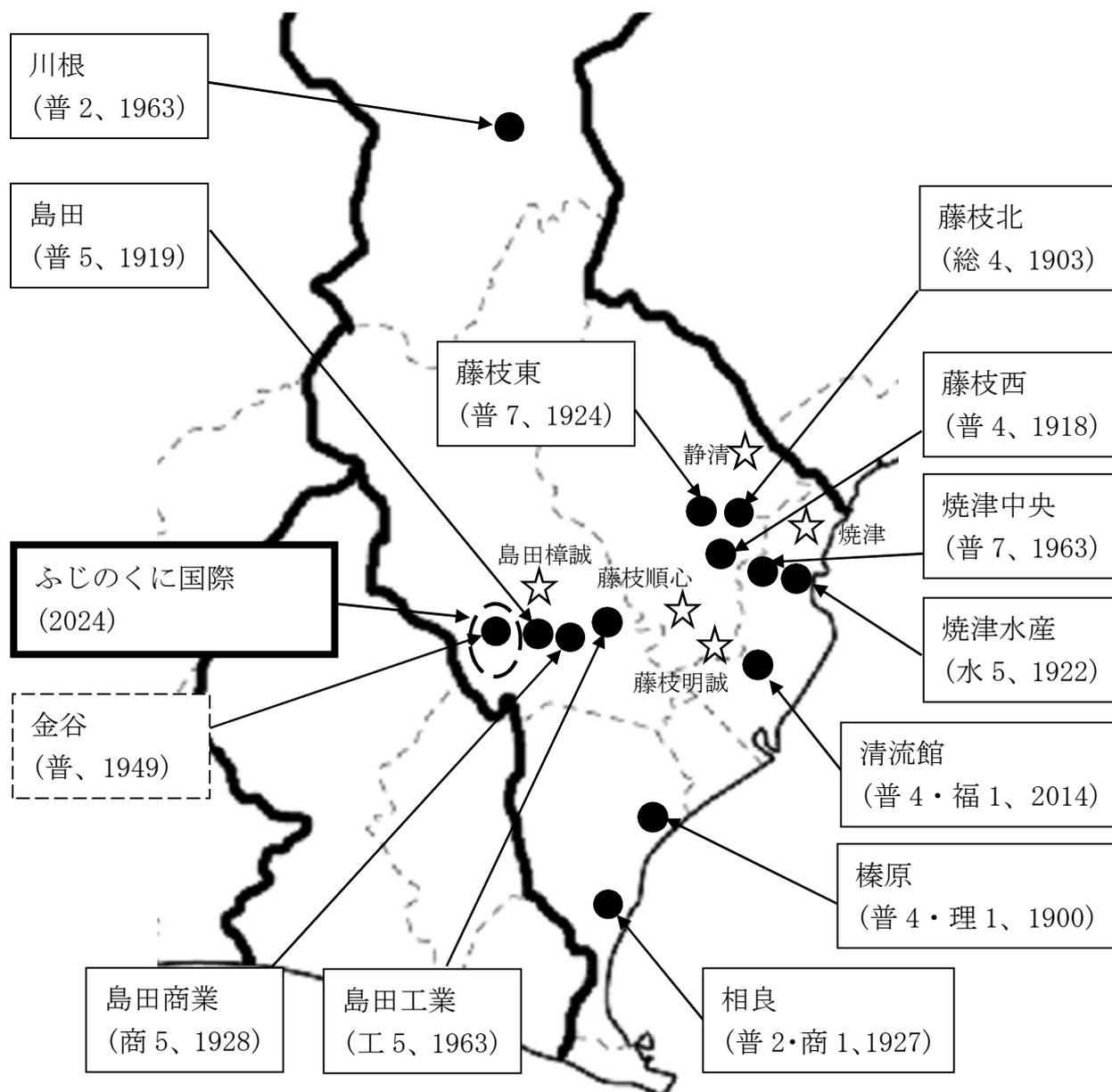
学校名	学科名・R5募集学級数				第三次計画	備考
	普通	普専	職専	総合		
清水東	6	理1				R1改築開始
清水西	4					R3改築開始
清水南	3	芸1				中等部
静岡市立清水桜が丘	3		商3			第二次計画再編
R5 募集学級数計 = 21c1						
R5 学校数計 = 4 校						

## (旧静岡学区)

学校名	学科名・R5募集学級数				第三次計画	備考
	普通	普専	職専	総合		
静岡	8					
静岡城北	5	国1				
静岡東	7					R4改築開始
静岡西	3					
駿河総合				6		第二次計画再編、特支分校
科学技術		理1	工7			第一次計画再編
静岡農業			農6			
静岡商業			商6			
静岡市立	7	理1				
R5 募集学級数計 = 58c1						
R5 学校数計 = 9 校						

(旧志榛学区の状況)

※ ( ) は設置学科・R5 募集学級数、開校年を示す

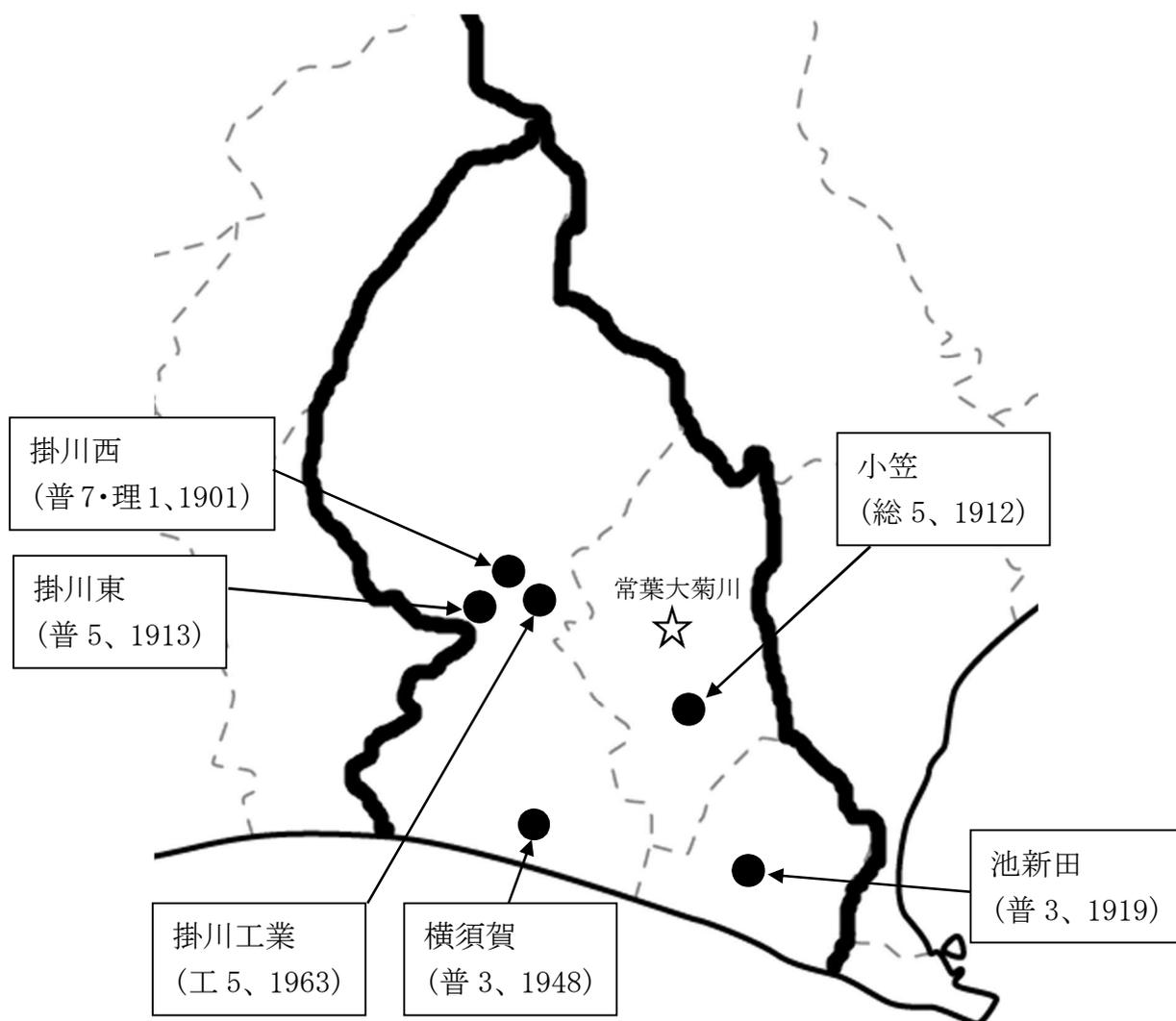


学校名	学科名・R5募集学級数				第三次計画	備考
	普通	普専	職専	総合		
焼津中央	7					R3改築開始
焼津水産			水5			R1改築開始、特支分校
清流館	4		福1			第二次計画再編
藤枝東	7					R2改築開始
藤枝西	4					
藤枝北				4		
島田	5					R2改築開始(長寿命化)
島田工業			工5			
島田商業			商5			改築済
金谷					単位制定時制	R4募集停止
川根	2					
榛原	4	理1				
相良	2		商1			

R5 募集学級数計 = 57c1  
R5 学校数計 = 13校

(旧小笠学区の状況)

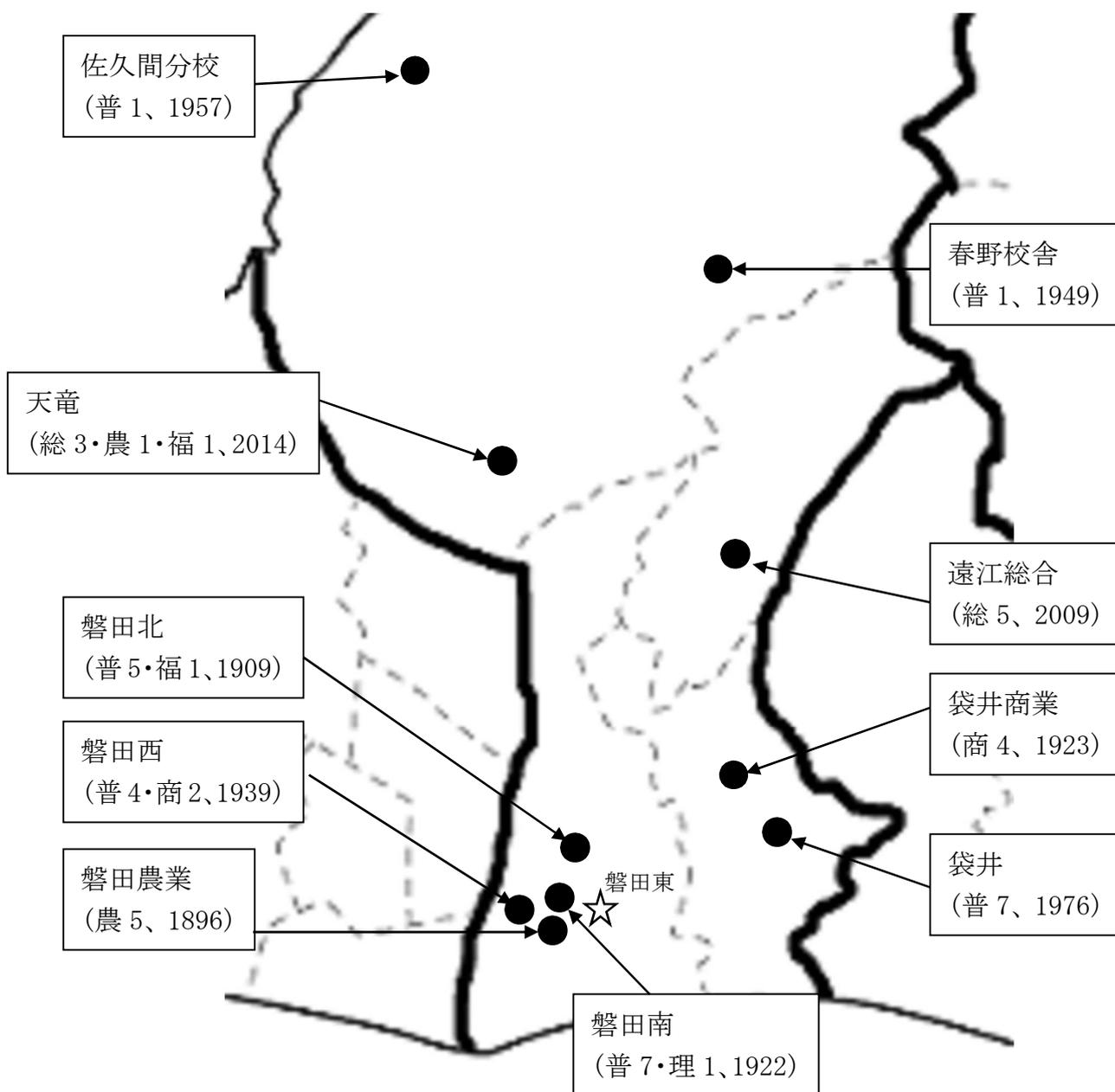
※ ( ) は設置学科・R5 募集学級数、開校年を示す



学校名	学科名・R5募集学級数				第三次計画	備考
	普通	普専	職専	総合		
掛川東	5					
掛川西	7	理1				
掛川工業			工5			
小笠				5		
池新田	3					特支分校
横須賀	3					
R5 募集学級数計 = 29c1						
R5 学校数計 = 6 校						

(旧磐周学区の状況)

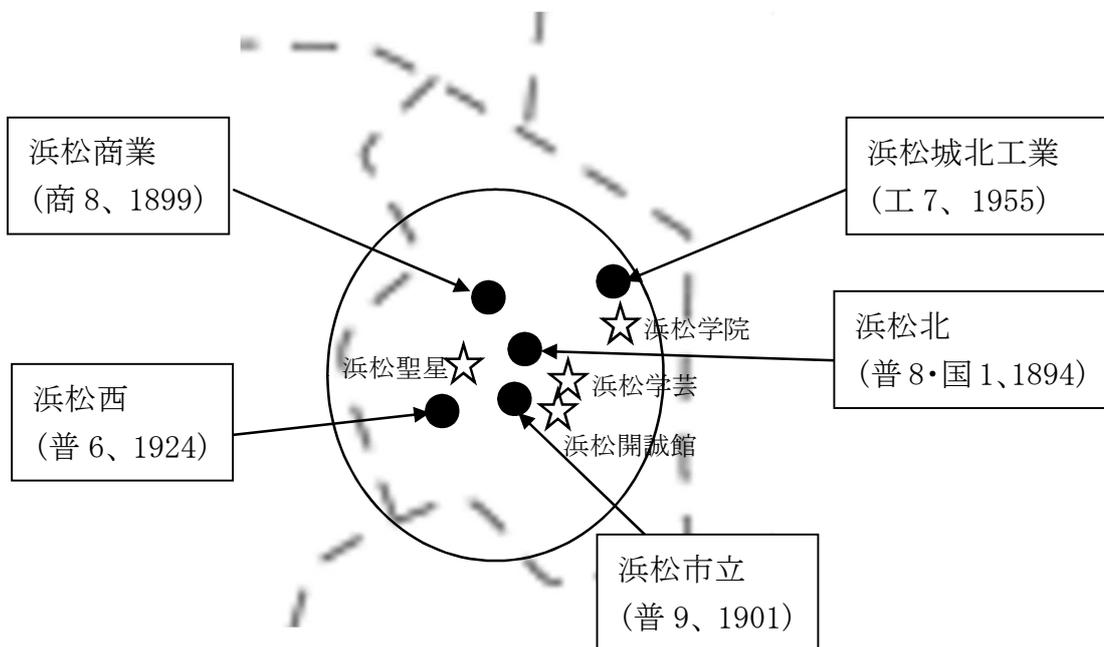
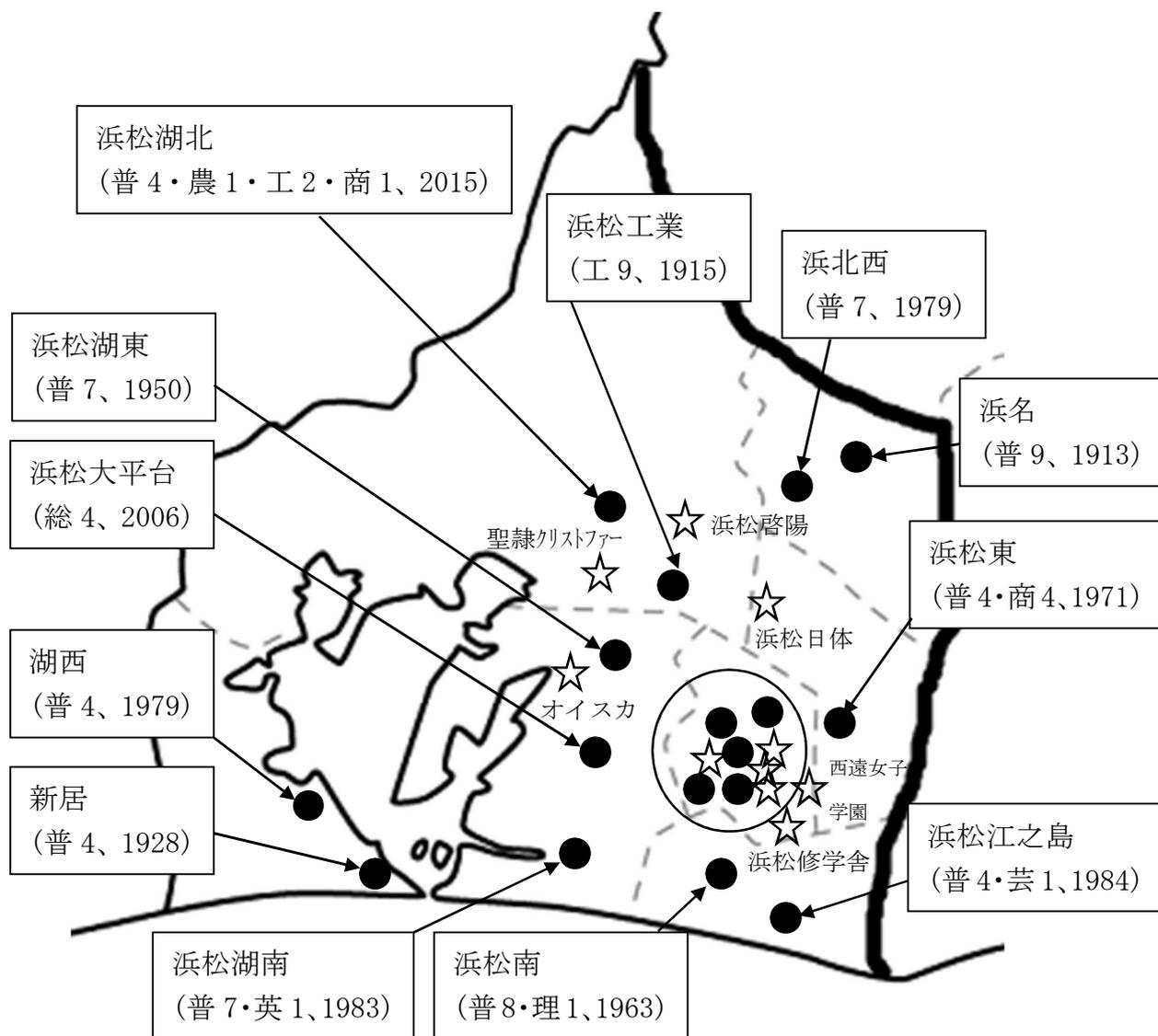
※ ( ) は設置学科・R5 募集学級数、開校年を示す



学校名	学科名・R5募集学級数				第三次計画	備考
	普通	普専	職専	総合		
遠江総合				5		第一次計画再編
袋井	7					
袋井商業			商4			
磐田南	7	理1				R1改築開始
磐田北	5		福1			特支分校
磐田農			農5			
磐田西	4		商2			
天竜			農1福1	3		第二次計画再編
春野校舎	1					第二次計画再編
佐久間分校	1					
R5 募集学級数計 = 48c1						
R5 学校数計 = 10 校						

(旧西遠学区の状況)

※ ( ) は設置学科・R5 募集学級数、開校年を示す



学校名	学科名・R5募集学級数				第三次計画	備考
	普通	普専	職専	総合		
浜松北	8	国1				
浜松西	6					中等部
浜松南	8	理1				R4改築開始
浜松湖東	7					
浜松湖南	7	英1				
浜松江之島	4	芸1				
浜松東	4		商4			
浜松大平台				4		第一次計画再編 (単)定時制
浜松工業		理1	工8			R3改築開始
浜松城北工業			工7			特支分校
浜松商業			商8			
浜名	9					
浜北西	7					
浜松湖北	4		農1工2商1			第二次計画再編
新居	4					改築済(長寿命化)
湖西	4					
浜松市立	9					
R5 募集学級数計 = 121c1						
R5 学校数計 = 17 校						

## 魅力ある高校づくりに向けた研究

(高校教育課)

### 1 概要

魅力ある高校づくりを推進するため、国の普通科改革を踏まえて、生徒の学習意欲を喚起し、多様な教育ニーズに応える普通科の在り方等を研究する。対象は、原則普通科を設置する県立高等学校。

### 2 令和5年度事業計画

(1) 予算 (当初予算額：62,000 千円 ※運営指導委員会費用 1,000 千円を含む。)

区分	採択数	予算(単位：千円)
イノベーション・ハイスクール	7校 (I類：3校、II類：4校)	14,000
アカデミック・ハイスクール	9校 (I類：6校、II類：3校)	19,000
グローバル・ハイスクール	11校 (I類：7校、II類：4校)	19,000
フューチャー・ハイスクール	6校 (I類：3校、II類：3校)	9,000

※I類は公募(外部有識者による選考)、II類は高校教育課指定とする。

(2) 研究内容 I、IIはそれぞれI類、II類を示す。

区分	内容
イノベーション・ハイスクール	<b>【リベラルアーツの推進・探究】</b> I 文系・理系のバランスのよい学びの研究 II 生徒が設定したオリジナルな探究活動を支援するカリキュラム研究 II 医療人材育成に向けたカリキュラム研究
アカデミック・ハイスクール	<b>【研究機関連携による社会課題探究】</b> I SDGsをはじめとする、学際的・領域横断的な分野の探究 II 演劇分野やスポーツ分野のカリキュラム研究 II 海外の教育機関や企業等と連携したカリキュラム研究
グローバル・ハイスクール	<b>【地域協働による地域課題探究】</b> I 自治体や地元企業との連携・探究 II 地域連携による科目設定、カリキュラム研究 II 地域企業での就業体験による単位認定の研究
フューチャー・ハイスクール ※小規模校における 取組	<b>【地域に開かれた学校づくり探究】</b> I 地域人材や民間活力を取り入れた学校運営の研究 I 生徒による地域活性化、大学と連携した地域課題の解決の研究 II 本校分校間、若しくは複数の学校が連携した遠隔授業の研究

### 3 実施校

	学校名	取組テーマ	
イノベーション	「文系・理系科目をバランスよく学ぶリベラルアーツの推進」Ⅰ類3校、Ⅱ類4校		
	Ⅰ	清水東	普通科・理数科の相互作用による文理の枠にとらわれない探究活動の研究
		藤枝東	文理融合カリキュラム・文理選択時期の研究
		浜松西	STEAM教育を軸とした文理の枠を超えたカリキュラムの研究
	Ⅱ	沼津西・沼津城北	生徒が設定したオリジナルな探究活動を支援するカリキュラム研究
沼津東、静岡、浜松北		医療人材育成に向けたカリキュラム研究	
アカデミック	「SDGsをはじめとする学際的・領域横断的な新たな社会課題を探究」Ⅰ類6校、Ⅱ類3校		
	Ⅰ	富士東	県内大学との連携・協働を取り入れた探究学習を核としたカリキュラムの研究
		静岡東	「探究学習ネットワーク」との連携を軸としたSDGsに関する探究活動の研究
		焼津中央	高大連携を主とした既存事業の体系化と新たな教育プログラムの研究
		掛川西	大学等専門機関と連携した系統的な社会課題解決学習の実践及びカリキュラム研究
		浜松南	コンソーシアム（大学・地元企業・市）と連携した授業改善と学校設定科目の研究
		浜松湖南	英語科レガシーの横展開と大学等と連携した開かれた教育課程の研究
	Ⅱ	清水南	SPACと連携した演劇科設置に向けたカリキュラム研究
		静岡西	大学の先端設備を活用したスポーツ分野のカリキュラム研究
三島北		海外の教育機関や企業等と連携したカリキュラム研究及び実践	
グローバル	「地域と協働し、地域社会の課題解決に向けて探究的学びを推進」Ⅰ類7校、Ⅱ類4校		
	Ⅰ	吉原	国際科や地域と連携した「住み続けられるまちづくり」を考える課題解決学習の研究
		富士宮北	地域資源（世界文化遺産・富士山）を活かした探究学習の研究
		富士宮西	地元自治体との連携と「富士宮市総合計画」に基づく地域課題をテーマとした総合探究の発展・研究
		清水西	地域福祉・医療系分野との連携を主とした地域課題解決学習の研究
		磐田北	市・大学・高校が連携した体験活動を核とした教育課程の研究
		浜北西	コミュニティ・スクールの活用を軸とした地域課題解決学習の研究
		湖西	産官学と連携した「湖西学」と各教科の繋がりを実現する指導計画の研究
	Ⅱ	池新田・横須賀	地域の企業と連携した先端施設の活用及び就業体験の実施等の授業の充実と単位認定の研究
熱海、榛原		地域と連携した学校設定科目の研究	
川根	自治体及び海外企業と一体となった地域づくり		
フューチャー	「中山間地域等の小規模校において、先端技術の活用や地域資源等の学校運営への参加を積極的に促進」Ⅰ類3校、Ⅱ類3校		
	Ⅰ	南伊豆分校	町と連携したカリキュラムマネジメントの実施による賀茂地区の人材育成の研究
		稲取	多様な学びや自己実現ができる学校となるためのICT技術の活用研究
		相良	地域人材を活用した地域活動の円滑な運営と探究型学習の深化の研究
	Ⅱ	土肥分校、佐久間分校	中山間地域におけるICT技術や地域資源等を活用した多様な学習機会の提供の研究
春野校舎		中山間地域の学校が連携した地域活性化の取組及び先端技術を活用した生徒の多様な学びの機会の保障の研究	

※イノベーションⅡ類の沼津西、沼津城北、グローバルⅡ類の池新田、横須賀はそれぞれ共同研究

# 中高一貫教育の状況

(高校教育課)

## 1 中高一貫教育の意義と導入の経緯等

### (1) 意義

6・3・3制の学校体系を基本としながら、現行の中学校・高等学校の制度に加えて、生徒や保護者が6年間の一貫した教育課程や学習環境の下で学ぶ機会も選択できるようにすることにより、中等教育の一層の多様化を推進し、生徒一人一人の個性をより重視した教育の実現を目指す。

### (2) 中高一貫教育の形態

#### ア 中等教育学校

一つの学校として一体的に中高一貫教育を行う。

6年間の課程は、前期課程(3年)、後期課程(3年)に分かれており、前期課程から後期課程への進学に際して入学者の選抜は実施されない。

#### イ 併設型

中等教育学校よりも緩やかな設置形態であり、同一の設置者が設置する中学校と高等学校が、中等教育学校に準じて(学校教育法第71条)中高一貫教育を行うものである。

当該併設型中学校から当該併設型高等学校に進学する場合は、高校入学者選抜は行わない。

#### ウ 連携型

市町村立中学校と都道府県立高等学校が、教育課程の編成や教員・生徒間の交流等の面で連携を深める形で中高一貫教育を実施するものである。

当該連携型中学校から当該連携型高等学校に進学する場合の入学者選抜は、調査書及び学力検査以外の資料により行うことができる(いわゆる「簡便な入学者選抜」とされている)。

## 2 全国の設定状況等

参考:令和4年学校基本調査(12月確定値)

### (1) 令和4年度の設定状況の内訳

区分	中等教育学校	併設型	連携型	計
公立	35(34)	105(101)	80(82)	220(217)
私立	18(18)	426(417)	4(4)	448(439)
国立	4(4)	1(1)	0(0)	5(5)
計	57(56)	532(519)	84(86)	673(661)

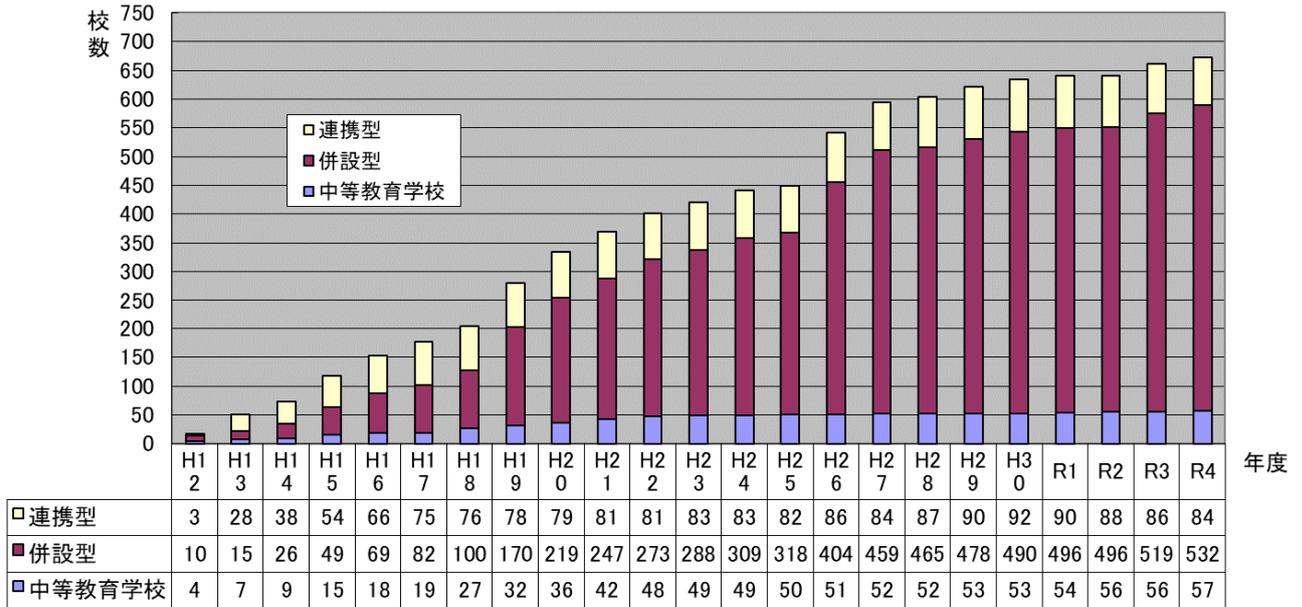
注 ( )内は令和3年度の設定校数

### (2) 中高一貫教育校における実施形態別占有率

項目	中等教育学校	併設型	連携型
設置数	57(56)	532(519)	84(86)
占有率	8.5%(8.5%)	79.0(78.5%)	12.5%(13.0%)

注 ( )内は令和3年度の状況

(3) 中高一貫教育校数の推移



3 本県の状況

(1) 設置状況

形態	開始年度	実施高等学校・中学校	
併設型 (3校)	平成14年度	浜松西高等学校・同中等部	
	平成15年度	清水南高等学校・同中等部	
	平成15年度	沼津市立沼津高等学校・同中等部	
連携型 (3校) 3地区	平成14年度	川根高等学校	島田市立川根中学校 川根本町立中川根中学校 〃 本川根中学校
	平成19年度	佐久間高等学校 (H29～浜松湖北高等学校佐久間分校)	浜松市立佐久間中学校 〃 水窪中学校
	平成20年度	松崎高等学校	松崎町立松崎中学校 西伊豆町立西伊豆中学校 〃 賀茂中学校(R3.3閉校)

(2) 現状

- 併設型中高一貫教育実施校においては、社会の各分野のリーダー及びスペシャリストを育成する教育目標を明確に掲げ、国際的な視野を広める語学教育や豊かな感性を育む芸術教育など、体験活動等を重視した特色ある取り組みを実施している。また、在籍する生徒は、高校入試を気にすることなく継続的に様々な学習や学校行事、部活動に取り組むことで、学力の向上や芸術、スポーツ等の分野で才能を開花させるなど、資質・能力を伸ばさせている。
- 連携型中高一貫教育実施校においては、関係中学校と連携して、地域をテーマにした探究的な学習を実施するなど、それぞれの地域資源を活用しながら、地域理解を深め、郷土愛を育成する教育活動が実施されている。

## 地域産業を支える実学奨励事業

(高校教育課)

### 1 要旨

社会の変化に柔軟にかつ主体的に対応できる能力と、産業界で必要となる高度な知識・技能を身に付け、社会の第一線で活躍できる専門的職業人の育成を図る。

### 2 令和4年度事業計画

地域産業を支える実学奨励事業費

(予算額 20,000 千円)

区 分	内 容						
実学高度化推進 事業 (20,000 千円)	・新しい技術と乖離した実学系専門高校の設備の現状を改善 ・最新設備の活用による、より実践的な専門教育の実施 ・専門的職業の育成 (整備校) 4校						
	学校名	設備名	内容				
	沼津工業	立フライス盤	金属加工を行う				
	吉原工業	鋳造機	金属材料の特性を学ぶ				
	島田工業	測量機器	測量技術を学ぶ				
	浜松湖北	プロジェクター/スクリーン	プレゼン技術を学ぶ				
	※参考						
	区分	R3	R4	R5	R6	R7	計
	当初 計画	60,000	60,000	60,000	60,000	60,000	300,000
	見直し 後計画	60,000	20,000	60,000	60,000	60,000	260,000
R4の当初の整備計画では、立てフライス盤（御殿場、掛川、沼津工業）の整備を含めた60,000千円で予定していたが、県立技術専門学校からの立てフライス盤の移設に伴い数量を精査し、御殿場・掛川工業（取り下げ）、沼津工業（3台→1台）とし、予算を40,000千円減額した。							

### 3 令和3年度事業

地域産業を支える実学奨励推進事業費

(予算額：60,000千円 9月補正▲2,014千円)

区 分	内 容		
実学高度化推進事業 (60,000千円) ※9月補正 (▲2,014千円)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい技術と乖離した実学系専門高校の設備の現状を改善</li> <li>・最新設備の活用による、より実践的な専門教育の実施</li> <li>・専門的職業の育成</li> </ul> 整備数:18 (整備校 13校)		
	学校名	設備名	内 容
	御殿場	調理実習機器	調理実習を行う
	富士宮東	患者移送器具 (リクライニング車椅子)	介護実習を行う
	富士宮東	患者移送器具 (電動車椅子)	介護実習を行う
	静岡農業	高所作業機 (庭園管理用機械)	造園技術を学ぶ
	科学技術	基板加工機	電子基盤の加工を行う
	焼津水産	ドラフターセット (製図機器)	製図技術を学ぶ
	藤枝北	食品加工室冷蔵庫 (冷蔵・冷凍装置)	食品加工技術を学ぶ
	島田工業	測量機器	測量技術を学ぶ
	小笠	パンミキサー	食品加工技術を学ぶ
	遠江総合	スーパーオーブン (加熱機)	食品加工技術を学ぶ
	磐田北	車椅子 (患者移送機器)	介護実習を行う
	磐田北	ベッド及びマットレス (ベッド)	介護実習を行う
	浜松工業	測量機器	測量技術を学ぶ
	裾野	手動ベット	介護実習を行う
	焼津水産	充填機	食品加工を行う
	新居	シャーリング	金属の加工を行う
	焼津水産	純水装置	食品分析等を行う
	富士宮東	老人介護実習モデル人形	介護実習を行う

### 4 その他

○静岡県産業教育審議会答申 (平成27年8月)

新しい実学を奨励するための方策として、次の3点が示されている。

ア 専門的職業人として社会の変化に柔軟に対応できる能力を育成する方策

イ 地域産業の発展と新産業の創出に貢献できる能力を育成する方策

ウ 学科改善及び施設・設備の整備の在り方並びに専門高校等に対する理解を促進する方策

# 県立高等学校における総合学科の状況

(高校教育課)

## 1 総合学科の導入の経緯等

### (1) 導入の経緯

総合学科は、普通教育を主とする学科である「普通科」、専門教育を主とする学科である「専門科」に並ぶものとして、普通教育と専門教育を総合的に行う学科として、平成6年4月から制度化された。

### (2) 総合学科の特色

原則として「単位制による課程」を採用し、以下のような特色を有する。

- 将来の職業選択を視野に入れた「産業社会と人間」を1年次に設定する。
- 生徒の個性を生かした主体的な学習を通じた体験学習を重視する。
- 多様な普通科目及び専門科目の中から、自己の興味・関心、進路等に基づき主体的な選択履修をすることにより、進学にも就職にも対応できる。

## 2 全国の設定状況等

### (1) 令和4年度の設置状況

令和4年度の総合学科設置校数は国公立及び私立（通信制を含む）を合わせて381校である。また公立の総合学科高校は全ての都道府県に設置されており、そのうち福井県を除く46都道府県には複数校が設置されている。

### (2) 設置校数の推移（参考：学校基本調査、5月実施、12月確定値）

年度	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4
校数	351	352	363	364	369	372	376	375	378	381	381	381

## 3 本県の状況

### (1) 設置状況

本県では、中学校の段階で将来の生き方や職業を決定していることが多くないこと、実社会においても物事を主体的に選択していく人材が求められること等を踏まえ、総合学科のような幅広い選択肢が設けられた学科への生徒及び社会のニーズは拡大すると予想し、通学可能な範囲に1校程度を目途に改組・整備を進め、令和元年5月現在、県立高校9校に設置されている。

年度	学校名等
平成7年度	小笠農業高等学校を総合学科に学科改善（小笠高等学校に改称）
平成14年度	富士宮農業高等学校を総合学科に学科改善（富岳館高等学校に改称）
平成15年度	藤枝北高等学校（農業科・工業科）を総合学科に学科改善
平成17年度	裾野高等学校（普通科・商業科）を総合学科に学科改善
平成18年度	浜松大平台高等学校に総合学科を設置（再編整備）
平成21年度	遠江総合高等学校に総合学科を設置（再編整備）
平成22年度	伊豆総合高等学校に総合学科を設置（再編整備）
平成25年度	駿河総合高等学校に総合学科を設置（再編整備）
平成26年度	天竜高等学校に総合学科を設置（再編整備）

(2) 現状

設置校では、地域の特色や改編前の伝統ある教育内容等を考慮した多様な系列を設置し、地域及び生徒の幅広いニーズに対応した教育を行っており、科目「産業社会と人間」を活用した進路への自覚を深めさせる学習の充実を図るとともに、ガイダンス機能を充実させるために、「履修の手引き」の作成や面接指導等に力点を置いている。

<参考：各校の設置系列>

系列/学校 (開設年度)	小笠 (H7)	富岳館 (H14)	藤枝北 (H15)	裾野 (H17)	浜松大平台 (H18)	遠江総合 (H21)	伊豆総合 (H22)	駿河総合 (H25)	天竜 (H26)
現学級数	5	5	4	4	4(+定200名)	5	2(+工業2)	6	3(+農業1)
系列数	7	7	6	5	6	7	4	6	4
科目数 (総合学科のみ)	147科目	104科目	110科目	94科目	109科目	121科目	90科目	115科目	116科目
人文科学系	人文国際	人文科学	人間社会	人文国際	人文科学	人文社会	文化国際	人文社会	人文自然
自然科学系	自然科学	自然科学		自然科学	自然科学	自然科学	情報理数	自然科学	
農業系	農業科学	生物生命	園芸科学		花と緑	食品園芸			
			食品科学						
工業系	情報技術	工業テクノロジー	環境化学			機械技術		ものづくり 総合	建築
			情報科学 ※1						
商業系	ビジネス 情報	情報 ビジネス		ビジネス	国際情報 ビジネス	ビジネス	ビジネス 教養	ビジネス総合	総合 ビジネス
健康福祉系	健康	こども 地域福祉	福祉介護		福祉・健康	ライフ デザイン	健康福祉	生活文化	未来創造
			保育						
芸術系	芸術				芸術・ デザイン			デザイン	
学科改善前	農	農	農工	普商	農	普農工商	普工	普商	普農工
前身校	小笠農業	富士宮農業			農業経営 浜松城南	森 周智	大仁 修善寺工業	静岡南 静岡市立商業	天竜林業 二俣

※1 工業系と商業系を併せ持つ。

## 定時制・通信制課程の教育

(高校教育課)

### 1 要旨

高等学校の定時制の課程及び通信制の課程は、昭和22年3月31日に交付され、翌23年4月1日から施行された学校教育法により設けられた制度である。

高等学校の定時制・通信制の課程は、発足当初、中学校卒業後、家庭の事情や経済的な理由等により、働きながら学ぼうとする青少年に対して、高等学校教育を受ける機会を与えるための制度であった。しかし、その後、約半世紀を経過する中で、社会の著しい変化に伴い労働環境や生活環境が多様化し、定時制・通信制の課程に学ぶ生徒も、勤労青少年に加えて、中学時代の一時期に不登校であった生徒、外国人の生徒及び全日制の課程の中途退学者、さらには特別な支援を必要とする生徒等と多様である。

### 2 現状

(1) 設置状況 公立高校 21校22課程 (令和5年4月現在)

	県立	市立	私立	計	備考
学年制	17	0		17	すべて全日制と併置
単位制	3			3	三島長陵、静岡中央、浜松大平台
通信制	1		1	2	県立1は静岡中央、私立1はキラリ
計	21	0	1	22	

	校名	課程	学科	設置	備考
1	下田	学年制	夜間定時制	普通科	併置 併修協力
2	伊東	学年制	夜間定時制	普通科	併置
3	小山	学年制	夜間定時制	普通科	併置
4	沼津工業	学年制	夜間定時制	工業技術科	併置
5	富士	学年制	夜間定時制	普通科	併置
6	富士宮東	学年制	夜間定時制	普通科	併置
7	清水東	学年制	夜間定時制	普通科	併置
8	静岡	学年制	夜間定時制	普通科	併置
9	科学技術	学年制	夜間定時制	工業技術科	併置
10	藤枝東	学年制	夜間定時制	普通科	併置
11	島田商業	学年制	夜間定時制	商業科	併置
12	榛原	学年制	夜間定時制	普通科	併置
13	磐田南	学年制	夜間定時制	普通科	併置 併修協力
14	浜松北	学年制	夜間定時制	普通科	併置
15	浜松工業	学年制	夜間定時制	工業技術科	併置
16	浜名	学年制	夜間定時制	普通科	併置 併修協力
17	新居	学年制	夜間定時制	普通科	併置

1	静岡中央	単位制	3部定時制	普通科	併置	
2	浜松大平台	単位制	3部定時制	普通科	併置	
3	三島長陵	単位制	3部定時制	普通科	単独	

1	静岡中央	単位制	通信制	普通科	併置	
---	------	-----	-----	-----	----	--

## (2) 生徒の状況

### 入学者の推移

#### ア 学年制による課程

年 度		平成21	平成22	平成23	平成24	平成25	平成26	平成27
定 時 制	定 員	720	720	720	720	720	720	720
	合格者	492	494	504	505	436	467	408
	充足率	68.3%	68.6%	70.0%	70.1%	60.6%	64.9%	56.7%
年 度		平成28	平成29	平成30	令和元	令和2	令和3年	令和4
定 時 制	定 員	720	720	720	720	680	680	680
	合格者	329	353	299	292	301	237	225
	充足率	45.7%	49.0%	41.5%	42.9%	44.3%	34.9%	33.0%

#### イ 単位制による課程

年 度		平成27		平成28		平成29		平成30	
		秋季	秋季	春季	秋季	春季	秋季	春季	秋季
定 時 制	定 員	576	64	576	64	576	64	576	64
	合格者	532	64	488	65	551	68	531	68
	充足率	92.4%	100.0%	84.7%	101.6%	95.7%	106.3%	92.2%	106.3%
通 信 制		353		335		317			
年 度		令和元		令和2		令和3		令和4	
		春季	秋季	春季	秋季	春季	秋季	春季	秋季
定 時 制	定 員	576	64	576	64	576	64	576	64
	合格者	541	78	549	28	400	50	425	32
	充足率	93.9%	121.9%	95.3%	43.8%	69.4%	78.1%	73.9%	50.0%
通 信 制		367		346		349		343	

注 単位制による定時制の課程は、平成17年度まで静岡中央1校、平成18・19年度は静岡中央、浜松大平台の2校、ただし、秋季入試は静岡中央のみ実施。平成20年度からは、静岡中央、浜松大平台、三島長陵の3校で春季入試を実施。秋季入試を静岡中央、浜松大平台の2校で実施した。平成22年度からは、三島長陵を加え、県内の単位制による定時制の課程すべての学校で秋季入試を実施している。

## (3) 修業年限の弾力化

### ア 経過

昭和25年の学校教育法の一部改正により、その修業年限は「4年以上」とされた。昭和53年、卒業に必要な単位数が85単位から80単位に引き下げられたことによって、定時制及び通信制の課程における修業年限の弾力化の動きが強くなった。現在、卒業に必要な単位数は74単位である。

昭和61年には臨時教育審議会の答申、昭和62年には高等学校定通教育検討会議の提言を受け、昭和63年11月に学校教育法の一部が改正されて、定時制及び通信制の課程の修業年限が「3年以上」となった。

### イ 本県の対応

平成2年2月に学則を改正し、「定時制の課程及び通信制の課程の修業年限を3年以上とするが、基本的には4年を原則とし、教育上適切な配慮をして、特段の支障なく3年で卒業が可能な生徒については、校長は卒業を認定できるものとする」とした。

### ウ 修業年限の弾力化による『3修制』の推進

平成13年度、県下定時制及び通信制の課程25課程すべての課程で『3修制』を教育課程表に位置付け、3年卒業を可能としている。

(ア) 3修制での卒業生数（各年3月の人数）

年	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
人数	58	67	83	77	93	95	74	62	64	48	54
年	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
人数	55	66	46	34	30	48	27	35	31	32	25

(イ) 併修協力校（定時制の課程における通信制の課程との併修に係る協力校の指定）

- 平成5年9月29日付け教高第564号で、『定時制の課程における通信制の課程との集団併修に係る協力校の指定に関する実施要項』を定めた。
- 平成6年4月1日から、協力校として指定された定時制の課程において、通信制の課程で行う面接指導（試験を含む）を行うことが可能となった。
- 生徒の実態等の変化に対応するため、平成11年12月21日付け教高第757号において、『定時制の課程における通信制の課程との集団併修に係る協力校の指定に関する実施要項』を改正し、3修制の適用を受けることのできる学年を、従来の第2・3学年の枠をはずし、第1学年から可能とした。
- 平成13年1月23日付け教高第812号により『定時制の課程における通信制の課程との集団併修に係る協力校の指定に関する実施要項』を改正し、1人でも希望者がいる場合は、併修協力校となることを可能とした。これに伴い、「集団併修協力校」の呼称を「併修協力校」に改めた。これにより、平成17年度の併修協力校は、6校7課程となっている。（平成16年度：6校7課程）
- 平成20年度、三島長陵高等学校内に、静岡中央高等学校通信制の東部キャンパスが開設されたことにより、沼津西高等学校の協力校の指定を解除した。このことにより、県公報による告示は年度ごとに協力校として指定し、毎年度行うこととした。

(ウ) 令和4年度の併修協力校：3校3課程

下田（4）、磐田南（13）、浜名（2） 併修生人数計19人

（ ）内の数は、令和4年度の併修校での併修生人数

平成14年度から磐田南高等学校は静岡中央高等学校の通信制の課程との併修を利用した定通併修による自校での3修制を実施している。

週時程に通信制の科目を組み込み、面接指導（スクーリング）・テスト等を実施し、添削指導についても磐田南高等学校の定時制の教師が静岡中央高等学校の兼務辞令により実施している。

また、下田、浜名の各高校においても同様に、自校での3修制を実施している。

(エ) 実務代替による単位修得

- 令和4年度の教育課程に教科「職業」、科目「職業一般」により実務代替を位置付けている学校：2校（清水東（旧課程のみ）、磐田南）
- 令和4年度の教育課程に教科「工業」、科目「実習」で実務代替を位置付けている学校：3校（沼津工業、科学技術、浜松工業）

(オ) 併修によらない自校での3修制

実施校 沼津工業、清水東、科学技術、島田商業、磐田南、浜松工業

平成12年度に清水東高等学校が、従来の1日4時間の授業に始業前及び放課後にそれぞれ1時間を加えた、1日6時間の授業が可能な方式をとることとして平成13年度試行を経て平成14年度から本格実施している。通信制との併修によらず自校のみで3年修業が可能な方式である。平成15年度から沼津工業が同様の方式により、自校3修制実施。静岡高校は平成14年度から平成27年度まで自校3修制実施。（沼津商業は平成15年度から平成21年度まで実施。）

(4) 充足率の推移（公立定時制）

上段：学年制と全国は5月1日現在の在籍生徒数，単位制定時制3校は春季選抜入学者と秋季選抜合格者の合計数  
下段：募集定員

	本 県						全 国			
	学年制		単位制（静岡中央）		単位制（浜松大平台）		単位制（三島長陵）			
19	$\frac{629}{840}$	74.9%	$\frac{263}{240}$	109.6%	$\frac{198}{200}$	99.0%	$\frac{36,305}{48,267}$	75.2%		
20	$\frac{547}{720}$	76.0%	$\frac{265}{240}$	110.4%	$\frac{208}{200}$	104.0%	$\frac{198}{200}$	99.0%	$\frac{37,027}{48,548}$	76.3%
21	$\frac{599}{720}$	83.2%	$\frac{259}{240}$	107.9%	$\frac{203}{200}$	101.5%	$\frac{203}{200}$	101.5%	$\frac{38,613}{48,147}$	80.2%
22	$\frac{589}{720}$	81.8%	$\frac{259}{240}$	107.9%	$\frac{202}{200}$	101.0%	$\frac{201}{200}$	100.5%	$\frac{41,313}{49,672}$	83.2%
23	$\frac{515}{720}$	71.5%	$\frac{233}{240}$	97.1%	$\frac{192}{200}$	96.0%	$\frac{187}{200}$	93.5%	$\frac{36,501}{46,830}$	77.9%
24	$\frac{522}{720}$	72.5%	$\frac{254}{240}$	105.8%	$\frac{193}{200}$	96.5%	$\frac{211}{200}$	105.5%	$\frac{34,695}{47,349}$	73.3%
25	$\frac{440}{720}$	61.1%	$\frac{259}{240}$	107.9%	$\frac{158}{200}$	79.0%	$\frac{196}{200}$	98.0%	$\frac{33,053}{47,042}$	70.3%
26	$\frac{484}{720}$	67.2%	$\frac{209}{240}$	87.1%	$\frac{200}{200}$	100.0%	$\frac{198}{200}$	99.0%	$\frac{32,469}{46,997}$	69.1%
27	$\frac{405}{720}$	56.3%	$\frac{195}{240}$	81.3%	$\frac{200}{200}$	100.0%	$\frac{199}{200}$	99.5%	$\frac{29,979}{46,156}$	65.0%
28	$\frac{334}{720}$	46.4%	$\frac{220}{240}$	91.7%	$\frac{173}{200}$	86.5%	$\frac{158}{200}$	79.0%	$\frac{27,714}{45,973}$	60.3%
29	$\frac{369}{720}$	51.3%	$\frac{238}{240}$	99.2%	$\frac{199}{200}$	99.5%	$\frac{182}{200}$	91.0%	$\frac{27,339}{45,037}$	60.7%
30	$\frac{332}{720}$	46.1%	$\frac{252}{240}$	105.0%	$\frac{195}{200}$	97.5%	$\frac{151}{200}$	75.5%	$\frac{25,344}{44,467}$	57.0%
31	$\frac{313}{680}$	46.0%	$\frac{253}{240}$	105.4%	$\frac{194}{200}$	97.0%	$\frac{179}{200}$	89.5%	$\frac{23,860}{43,958}$	54.3%
R2	$\frac{318}{680}$	46.8%	$\frac{229}{240}$	95.4%	$\frac{188}{200}$	94.0%	$\frac{159}{200}$	79.5%	$\frac{23,777}{43,454}$	54.7%
R3	$\frac{252}{680}$	37.1%	$\frac{177}{240}$	73.8%	$\frac{149}{200}$	74.5%	$\frac{129}{200}$	64.5%	$\frac{20,543}{43,247}$	47.5%
R4	$\frac{232}{680}$	34.1%	$\frac{173}{240}$	72.1%	$\frac{152}{200}$	76.0%	$\frac{134}{200}$	67.0%	$\frac{21,494}{42,927}$	50.1%

公立高校定時制在籍率  
（単位制を含む）

$$\frac{1 \sim 4 \text{ 年在籍数}}{1 \sim 4 \text{ 年生徒定員}} \times 100$$

年 度	本 県	全 国
19	$\frac{3,085}{5,360}$ 57.6%	$\frac{104,628}{193,754}$ 54.0%
20	$\frac{3,252}{5,440}$ 59.8%	$\frac{104,811}{193,678}$ 54.1%
21	$\frac{3,357}{5,320}$ 63.1%	$\frac{107,613}{193,036}$ 55.7%
22	$\frac{3,624}{5,360}$ 67.6%	$\frac{116,067}{194,634}$ 59.6%
23	$\frac{3,589}{5,440}$ 66.0%	$\frac{111,625}{193,197}$ 57.8%
24	$\frac{3,570}{5,440}$ 65.6%	$\frac{108,893}{191,998}$ 56.7%
25	$\frac{3,338}{5,440}$ 61.4%	$\frac{103,474}{190,893}$ 54.2%
26	$\frac{3,207}{5,440}$ 59.0%	$\frac{98,851}{188,218}$ 52.5%
27	$\frac{3,126}{5,440}$ 57.5%	$\frac{94,261}{187,544}$ 50.3%
28	$\frac{3,020}{5,440}$ 55.5%	$\frac{90,089}{186,168}$ 48.4%
29	$\frac{2,955}{5,440}$ 54.3%	$\frac{86,736}{184,163}$ 47.1%
30	$\frac{2,910}{5,440}$ 53.5%	$\frac{82,423}{181,633}$ 45.4%
31	$\frac{2,874}{5,400}$ 53.2%	$\frac{79,115}{180,399}$ 43.9%
R2	$\frac{2,889}{5,360}$ 53.9%	$\frac{76,649}{177,880}$ 43.1%
R3	$\frac{2,620}{5,320}$ 49.2%	$\frac{71,999}{175,126}$ 41.1%
R4	$\frac{2,476}{5,320}$ 46.5%	$\frac{69,316}{173,586}$ 39.9%

各年度5月1日付学校基本調査の在籍生徒数

# インクルーシブ教育システムに基づく「共生・共育」の推進

(特別支援教育課)

## 1 基本的な考え方

### (1) インクルーシブ教育システムの考え方

- ・同じ場で共に学ぶことを追求するとともに、個別の教育的ニーズのある幼児児童生徒に対して、自立と社会参加を見据えて、その時点で教育的ニーズに最も的確に応える指導を提供できる、多様で柔軟な仕組み（小中学校における通常の学級、通級による指導、特別支援学級、特別支援学校といった、連続性のある「多様な学びの場」）を整備することが重要

- ・その構築のため、特別支援教育を着実に進めていくことが必要

(H24.7 文科省中教審分科会報告「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進」より)

### (2) 特別支援教育の考え方

- ・障害のある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うものである。
- ・特別支援教育は、特別支援学校のみならず、幼稚園、小学校、中学校、高等学校等の障害により特別な支援を必要とする子供たちが在籍する全ての学校において実施されるもの。

(H19.4 文科省局長通知「特別支援教育の推進について」より)

インクルーシブ教育システムにおいては、「可能な限り同じ場で共に学ぶ」と「教育的ニーズに的確に応える指導の提供」の両側面から推進していくことが必要

## 2 静岡県が目指す「共生・共育」の在り方

「静岡県における共生社会の構築を推進するための特別支援教育の在り方について—共生・共育を目指して—（平成28年4月）」を策定

### (1) 基本的な考え方

- ・「共生・共育」に向けた特別支援教育を推進し、社会全体に広げていくことで、「共生社会」の形成を目指す
- ・「共生・共育」を実現するために、インクルーシブ教育システム構築の理念を踏まえた6つの視点から、各学校段階の支援を充実させる

< 6つの視点 >

- ① 支援体制の整備、② 多様な学びの場の環境整備、③ 個に応じた指導の充実、④ 学校間の連携と「交流及び共同学習」、⑤ 関係機関の連携と外部人材の活用、⑥ 専門性の向上

### (2) 「共生・共育」が目指すもの

「心のユニバーサルデザイン」の視点に立ち、障害のある幼児児童生徒と障害のない幼児児童生徒が、居住する地域社会の中で、共に生活し支え合い育つとともに、個に応じた適切な教育が受けられることを目指す

本県の「共生・共育」は、文部科学省が示している「インクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進」の基本的な考え方と合致しているものとする。

「共生・共育」＝静岡版「インクルーシブ教育システム」

### 3 「共生・共育」の実現に向けた課題

- ・「共生・共育」の理念が一般的に周知しきれておらず、インクルーシブ教育システムとは、別の考え方という認識を招いている可能性は否定できない
- ・「共に学ぶ」ことを追求する意識が、本県の学校教育全体に浸透しているという状況ではない。このため、「学びの場」の決定において必要な、一人一人の障害の状態等の把握や「教育的ニーズ」の明確化が追求しつくされていない場合がある。

#### <「学びの場」の決定での必要事項>

「共生・共育」（インクルーシブ教育システム）に向けた就学先決定の仕組み

- ⇒ 障害の状態に加え、教育的ニーズ、学校や地域の状況、本人及び保護者や専門家の意見等を総合的に勘案して、障害のある子供の就学先を個別に判断・決定する。

#### <「教育的ニーズ」とは>

- ・ 子供一人一人の障害の状態や特性および心身の発達の段階等を把握して、具体的にどのような特別な指導内容や教育上の合理的配慮を含む支援の内容が必要かを検討することで整理されるもの
- ・ 教育的ニーズを整理するための観点
  - ①障害の状態等
  - ②特別な指導内容
  - ③教育上の合理的配慮を含む必要な支援の内容

### 4 課題対応に向けた取組

#### (1) 「共生・共育」（インクルーシブ教育システム）を推進するための調査・研究

- ・ 当事者団体からの聞き取りや市町教育委員会への調査等を実施し現状把握をする。
- ・ 他県先進事例の調査・研究をする。

#### (2) インクルーシブ教育システムに基づく本県の「共生・共育」についての協議

- ・ 教育委員会として取組むために、義務教育課（幼児教育支援充実事業）、高校教育課（特別支援教育の推移と協働で事業を進める）。
- ・ 自立支援協議会学齢部会や特別支援教育体制整備研究協議会において、外部委員の意見等も踏まえ共生・共育の推進方法を検討する。

#### (3) 教職員等関係者への静岡版「インクルーシブ教育システム」としての「共生・共育」に関する理念の周知

- ・ 市町教育長会、市町就学指導担当者会等において、現状と課題を含め周知を図る。
- ・ 就学支援に係わるリーフレットを作成する。
- ・ 特別支援体制整備事業において、市町教育委員会指導主事や福祉課担当職員、学校のコーディネーター等に対し、「共生・共育」やインクルーシブ教育システムの理念について説明したり、市町等の好事例等を紹介することで啓発を図る。
- ・ 研究や協議の結果をもとに、インクルーシブ教育システムを踏まえたガイドライン等を作成する。

# 県立高等学校への県外からの入学（令和5年度入学者選抜制度）

（高校教育課）

## 1 概要

県立高校の県外からの入学について、新たに県外からの志願を認める。なお、今後の運用結果により、制度は柔軟に見直していく。

## 2 現状

- ・志願資格を有するのは原則県内の中学校卒業者（入学後、保護者と県内に居住することが明らかかな場合などを除く）
- ・R4年2月調査で、全県で6校38人が、保護者の転居を伴わず県外から入学していたことが判明
- ・R4年度入試では、家庭の事情等により転居が難しい場合には、身元保証人をつけることで対応

## 3 令和5年度入学者選抜への対応

### （1）基本的方向性

- ・保護者の転居を伴わない県外からの志願についてルールを明確化する。
- ・学校の特色化・活性化に寄与する意欲ある県外志願者を求める。
- ・県内全ての県立高校において、受入れを可能とする。

### （2）具体的な条件（概要）

#### 「学校の特色化、活性化に寄与する県外からの志願者の募集」

#### ①志願者

- ・学校の特色化、活性化に寄与する県外からの志願者とする。
- ・学校裁量枠（文化的・体育的活動、学科等への適性等）のうち一つに志願することができる。

#### ②志願資格（次のいずれかに該当する者とする。）

- ・保護者とともに居住し、県外の自宅から通学できる者
- ・県内に身元保証人を定め、身元保証人が生活全般を日常的に支援できる者  
（身元保証人との同居を必要とするなど、学校の実情に応じた条件の設定が可能）

#### ③合格者

- ・若干名（原則、全体の募集定員の5%を上限）

（参考）選抜方法

全体の募集定員		
①特別選抜	一般選抜	
	②学校裁量枠 （実技検査等）	③共通枠
海外帰国生徒選抜	文化的・体育的活動	3段階で選抜する
外国人生徒選抜	学科等への適性	
長期欠席生徒選抜	探究活動	
連携型選抜	特別活動等	
県外生徒特色選抜 （川根・土肥）	中学校における学習 （調査書の教科の合計）	

↑  
全体の募集定員の  
5%を上限とする

## 県立高等学校の在り方に係る地域協議会

(高校教育課)

### 1 要 旨

急激な時代の変化を踏まえ、第三次長期計画の内容と現状の間に乖離が起きたことにより、改めてその在り方を検討することとした。そのため地域の声を聞く地域協議会を今年度は3地区において設置した。

### 2 開催状況

#### <賀茂地区>

賀 茂 地 区	委員	関係首長、市町教育長、同窓会長、PTA会長、産業界代表者、高校長、中学校長
	開催 状況	<p> <b>《第1回》</b>            日 時：令和4年7月6日 ※下田総合庁舎            協議事項：賀茂地区における今後の県立高校の在り方について  <b>【主な意見】</b>            ・全ては子供たちの未来のためにどうすれば、どのような環境があればいいかを第一に考えたい。            ・最後は県が決断してほしいが、4校残してほしいと考えている。その方策として、例えばキャンパス制の導入が考えられる。            ・多様な選択肢に応えられるような学科、コースができると県立高校を希望生徒が増える。         </p> <p> <b>《第2回》</b>            日 時：令和4年11月24日 ※下田総合庁舎            協議事項：賀茂地区における今後の県立高校の在り方について  <b>【主な意見】</b>            ・学校は地域に必要な存在であり、残してほしいが、学校規模も大きいほうが良い。生徒数減少の中、10年、20年先を見越して考えたい。            ・保護者の通学費負担という視点も入れて議論をしてほしい。            ・普通科をベースに、特色ある学びについての選択肢をカリキュラムの中で設けるのが良い。         </p> <p> <b>《第3回》</b>            日 時：令和5年3月29日 ※下田総合庁舎            協議事項：賀茂地区における今後の県立高校の在り方について  <b>【主な意見】</b>            ・老朽学校施設の更新も想定すれば、あと数年でハードも含めた明確なグランドデザインを考えなければいけない。            ・県立高校の在り方は、県だけの問題ではなく、市町とともに考える、まちづくり・人づくりの問題である。            ・ICTの活用について、ウェブスリー、メタバースなどデジタル技術の活用も視野に検討すべき。         </p>

<沼津地区>

沼津地区	委員	沼津市教育長、PTA会長、同窓会長、産業界代表者、高校長、中学校長
	開催状況	<p>≪第1回≫ 日 時：令和4年11月14日 ※沼津商工会議所 協議事項：沼津地区における今後の県立高校の在り方について 【主な意見】 ・子どもの目線を重視して、生徒の意見を幅広く聞くことが必要である。 ・人口減が進む中で沼津地区に、「どのような高校が必要か」、「どのように魅力的な高校を作っていくか」、地域を巻き込んだ議論が大切である。</p> <p>≪第2回≫ 日 時：令和5年3月16日 ※東部総合庁舎 協議事項：沼津地区における今後の県立高校の在り方について 【主な意見】 ・沼津地域の教育のあり方を考える上では、生徒数減、私学との関係を踏まえた人材育成のグランドデザインを考える必要がある。 ・沼津市、私学との意見交換が必要である。</p>

<小笠地区>

小笠地区	委員	関係首長、市教育長、PTA会長、関係団体代表者、産業界代表者、高校長、中学校長
	開催状況	<p>≪第1回≫ 日 時：令和4年10月18日 ※小笠高等学校 協議事項：小笠地区における今後の県立高校の在り方について 【主な意見】 ・地域協議会で地域全体の議論を通じて、よりよい高校の方向性が定まればよい。 ・高校が廃止されると、地域活性化等でマイナスが大きい。 ・今後の急激な少子化を考えると、さらに学校が小規模化して存続が危ぶまれる状況を懸念する。</p> <p>≪第2回≫ 日 時：令和5年3月27日 ※プラザきくる 協議事項：小笠地区における今後の県立高校の在り方について 【主な意見】 ・すぐに生徒数は減少しないが10年後の急激な減少に備えて、この1年程度でグランドデザインを描く必要がある。 ・高校生が、大人や小・中学生との触れ合うことで地域に対する認識が高まり、地域への愛着に繋がる。 ・袋井、磐田や榛原など他地域との繋がりも重要である。</p>

## 適正規模の考え方

### 1 第三次長期計画における基本方向（平成30年3月）

#### ◆適正規模の基本方向（抜粋）

全日制課程の規模については、次のような理由から、生活集団としては、おおむね1学年6～8学級が適正であると考えます。

- 教員・生徒間及び生徒相互間の望ましい人間関係の形成に資する規模であること。
  - 学年行事、学校行事等が円滑かつ効果的に実施できる集団の大きさを確保できる規模であること。
  - 各教科、特別活動等の教育課程の充実に必要な教職員数を確保できる規模であること。
- ただし、適正規模については、これを「標準規模」ととらえ、専門学科等教育内容の特色や生徒及び地域の実情等を踏まえ、弾力的に考えるものとする。

#### ◆高校標準法等による学校規模と教員定数の比較（普通科の場合）

学級数/学年	3学級	4学級	5学級	6学級	7学級	8学級
教員定数	23人	29人	35人	43人	48人	52人

※教員数には、校長、教頭、養護教諭、実習助手等は含まない

### 2 学校規模によるメリット・デメリット

#### <大規模校（6学級規模校）>

項目	メリット	デメリット
教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教員数が確保でき、生徒の興味、関心、進路希望に応じた多様な教育課程の編成が可能。（特に社会、理科）</li> <li>○生徒の組合せが多く、人間関係に配慮した学級編成が可能。</li> <li>○部活動数、顧問数が確保でき、生徒の興味、関心に応じた多様な部活動の展開が可能。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校行事や部活動等において、生徒一人ひとりの活躍場面を設定しにくい。</li> <li>○施設・設備・備品等の使用における制約が生じやすい。</li> <li>○施設面において、部活動の活動場所に制約が生じる場合がある。</li> </ul>
生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒間に刺激が多く、切磋琢磨の機会が豊かになり、良好な競争心が育まれる。</li> <li>○人間関係の多様な組合せが可能となり、幅広い教育活動が展開しやすい。</li> <li>○学校行事等（文化祭、体育祭等）様々な場面で活力、活性化に資する面が大きい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○すべての生徒の把握が困難となる。</li> <li>○3年間で交流のない生徒や教師がおり、集団としての一体感が醸成しにくく、生徒相互の信頼関係や相互理解が弱くなりやすい。</li> </ul>
学校経営	<ul style="list-style-type: none"> <li>○業務における役割、責任の所在が明確になりやすく、教員一人あたりの負担が軽減。</li> <li>○様々な場面で多様な選択肢の提供が可能となり、活力ある校務運営がしやすい。</li> <li>○生徒一人あたりにかかる経費が小さい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○すべての教職員間での相互連携が取りにくい。</li> <li>○個々の教員の全体的な視野からの見解が難しくなりやすい。</li> </ul>

<小規模校（3学級規模校）>

項目	メリット	デメリット
教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒一人ひとりに目が届きやすく、緊密な人間関係が作りやすく、きめ細かな指導が行いやすい。</li> <li>○生徒の学校行事等での一人ひとりの活躍の場が増加する。</li> <li>○施設・設備・備品等の使用における制約が少なく、授業展開にゆとりがある。</li> <li>○のどかな雰囲気での学習活動を行える。</li> <li>○生徒数が少ないため団結力が生まれる。</li> <li>○部活動を集約すれば、効率的な運営が可能。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教員数が少なく、生徒の希望に応じた科目を開設することが難しい。また、非常勤講師が多くなり、授業時間外での質問対応に支障が出やすい。</li> <li>○教員が担当する科目や学年の数が多くなり、授業準備等の負担が大きい。</li> <li>○生徒の組合せが少なく、学び合いの場が持ちにくい。多様な生徒の意見を聞くことが困難。</li> <li>○部活動数、顧問数の確保が困難。（特に団体種目）</li> <li>○学校行事での生徒役割の固定化の懸念。</li> </ul>
生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒の把握が容易となり、生徒との緊密な人間関係が作りやすく深まりやすい。</li> <li>○生徒相互の信頼関係や相互理解が強くなる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒間に刺激が少なく、切磋琢磨の機会が乏しくなり、良好な競争心が育まれにくい。</li> <li>○人間関係の組み合わせが少なく、固定化しやすくなり、人間関係につまずくと、お互いに逃げ場がなくなる。</li> </ul>
学校経営	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教員が少人数であるため、相互連携が密になり、意思の疎通がしやすい。</li> <li>○若手でも責任のある仕事を任されることが多いため、教師の成長が早い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教員が少人数のため、一人で何役もこなす必要があり負担が大きい。（校務分掌や部活動での兼務）</li> <li>○生徒一人あたりにかかる経費が大きい。</li> </ul>

# オンラインを活用した多様な学びに対応するシステム構築について

(高校教育課)

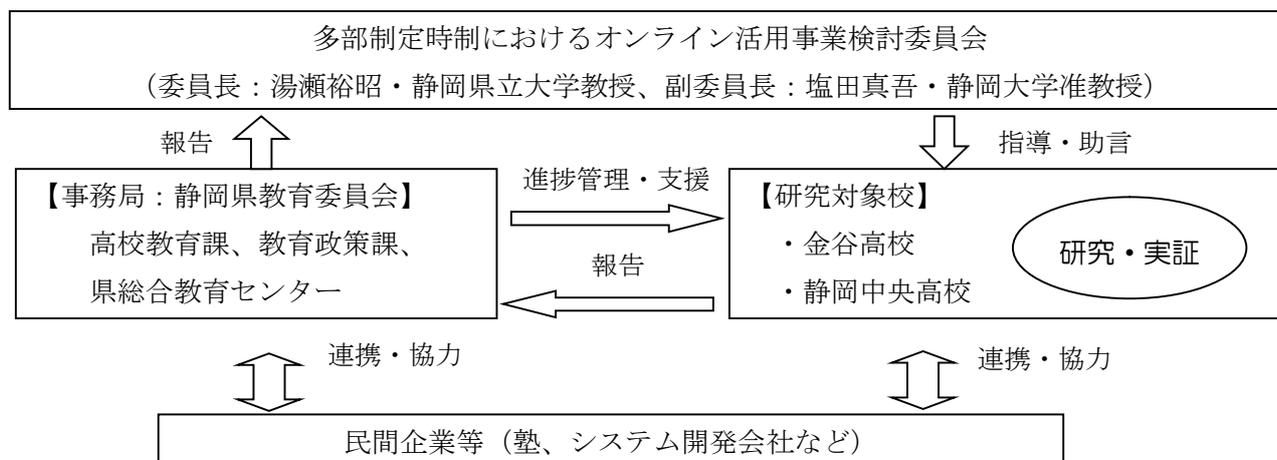
## 1 研究事業の概要

事業名	多部制定時制高校における多様な生徒ニーズに応えるためのオンライン活用事業
研究対象校	金谷高校、静岡中央高校
研究内容	①オンデマンドやオンラインを活用した学力保障 ②オンラインによるカウンセリングの実施 ③単位制高校のための履修登録システムの構築
研究期間	令和3～5年度
事業規模	各年度の計画額の上限：400万円

### 【参考】文部科学省「多様性に応じた新時代の学び充実支援事業」(趣旨)

高等学校においては、多様な学習ニーズに応じた学びの実現とともに、ICTを効果的に活用した新時代の学びの充実を図ることが求められていることを踏まえ、定時制・通信制課程をはじめとする多様な高等学校制度を生かし、多様な生徒に応じて卒業後の進路を見据えた学習プログラムのモデルを検討するとともに、多様な学習ニーズに応じたICTを効果的に活用した指導方法や評価方法等の実証研究を行う。

## 2 研究の実施体制 (イメージ)



## 3 研究スケジュール

	① ICTで学力保障	②遠隔カウンセリング	③履修登録システム
令和3年度	オンデマンドの作成	ニーズ調査、試行	課題整理
令和4年度	オンライン補習の試行	試行、課題整理	システム試作
令和5年度	課題や条件面の確認	通級指導への拡大	静岡中央で試行
ゴールイメージ	ハイブリッド授業実施	遠隔通級の出席認定	システム活用

# 中山間地等の小規模校への支援

(高校教育課)

## 1 趣旨

過疎地域等の学校においては、学校の小規模化が進み、人的・設備的に不足し、多様な学びに応えることができず、学校の魅力も低下することから、生徒の流出が進む傾向にある。

令和3年1月の中教審の答申では、『「中山間地に立地する学校における教育資源の活用・共有」として、ICT技術など様々な教育資源を活用して、小規模校単独ではなし得ない教育活動を行うこと、が求められている』など、過疎地域などの小規模校が、学校を社会に開き、多様な社会資源を活用しながら多様で個別的な学習ニーズに応えることの必要性が示されている。

本県では、令和3年4月より、オンリーワン・ハイスクール事業の区分の一つとして「フューチャー・ハイスクール」を設定し、通学可能な学校が限られている地域（中山間地域、過疎地域、へき地等）等の小規模校において、先端技術や地域人材、民間活力を積極的に学校運営に取り入れ、生徒の多様な学びのニーズに応え、地域で育ち、将来地域の中心となる人材を育成することを研究する。

## 2 対象校

「中山間地域等の小規模校において、先端技術の活用や地域資源等の学校運営への参加を積極的に促進」 I類3校、II類3校			
フューチャー	I	下田南伊豆分校	町と連携したカリキュラムマネジメントの実施による賀茂地区の人材育成の研究 923,643円
		稲取	多様な学びや自己実現ができる学校となるためのICT技術の活用研究 915,000円
		相良	地域人材を活用した地域活動の円滑な運営と探究型学習の深化の研究 952,000円
	II	伊豆総合 土肥分校、浜松湖北 佐久間分校	中山間地域におけるICT技術や地域資源を活用した多様な学習機会の提供の研究 2,359,543円 2,217,000円
		天竜春野校舎	中山間地域の学校が連携した地域活性化の取組及び先端技術を活用した生徒の多様な学びの機会の保障の研究 2,175,600円

## 3 具体的な取組の例

南伊豆分校	町が連携する民間のキャリアコンサルタントを活用したインターンシップの実施
稲取	一人一台端末を整備し、学習支援アプリを利用して個の課題に応じた自主学習や学力の定着を図る（クラウドサービスを課題提出や小テストに活用）
相良	地元の企業・商店街の職場見学の実施により、地域で働くことの意義、企業が地域に与える影響や役割を学ぶ
土肥分校	<ul style="list-style-type: none"> <li>単位認定を伴う遠隔授業の実施</li> <li>地域人材（地域出身の精神保健師、元教育委員）を活用した特別な支援を要する生徒への学習支援、生活指導、教員の負担軽減</li> </ul>
佐久間分校	<ul style="list-style-type: none"> <li>単位認定を伴う遠隔授業の実施</li> <li>本校分校連携による商品開発と地域貢献活動の実施（湖北MAGICの共同実施）</li> <li>進学指導や補講を本校分校が共同して実施</li> </ul>
春野校舎	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校分校が連携して地域振興のための若者会議を開催</li> <li>総合的な探究の時間において地域の幅広い年代の方の協力を得て、春野町の歴史的な背景を探り、文化・産業を理解する。</li> <li>遠隔授業の円滑な実施のための環境整備（追加予算）</li> </ul>

# 中山間地域の小規模校における遠隔教育推進事業

(高校教育課)

## 1 要旨

中山間地域における小規模校の教育の質の確保に向けて、平成 28 年度より調査・研究を進めてきた「多様な学習を支援する高等学校の推進事業」で得た成果と課題を引継ぎ、新たに「高等学校における次世代の学習ニーズを踏まえた指導の充実事業」の委託を受けて、単位認定を伴う遠隔授業の実施に向けた調査・研究を進める。さらに、大学や企業等と接続した遠隔授業についても研究を行い、その手法を他の中山間地域の小規模校へ普及し、魅力化を図る。

令和元年度で委託事業は終了したため、令和 2 年度については県教育委員会単独で調査研究を行った。

これらを踏まえ、令和 3 年度より、本校一分校間における「教科・科目充実型」遠隔授業については、その教育的効果が対面授業に相当すると認められる場合、36 単位を超えない範囲で単位の修得を認めることとした。

## 2 内容

- (1) 遠隔授業における授業力を向上させるとともに、単位認定を伴う遠隔授業の本格実施のための、条件整備や運用方法を検討する。
- (2) Skype 等の Web 会議システムを用いて、大学や企業等と接続した遠隔教育を実施し、その方法や効果について検討する。

## 3 令和 2 年度の取組

これまでの継続課題の研究や、本格実施に向けた条件整備や運用方法の検討を通じて、より実践的な研究を進め、令和 3 年度からの単位認定を伴う遠隔授業の実施を目指した。

- 実施科目の検討 ○知見・技術の普及
- 「遠隔教育による単位認定の運用指針」策定（令和 3 年 1 月 22 日に通知）
- 「遠隔教育の手引き」作成（令和 3 年 3 月完成、県立高等学校に配布）

(調査研究校における令和 2 年度遠隔授業実施実績)

学校名	実施教科	回数
伊豆総合・土肥	数学（数学Ⅱ、数学A、数学活用数学Ⅲ） * 数学Ⅱ、数学Aについては単位認定を先行実施	92 回
浜松湖北・佐久間	理科（化学基礎演習）、数学（数学B）	31 回
川根・総合教育センター	理科（化学基礎演習）、地歴（世界史A） 総合的な探究の時間	38 回

## 4 令和 3 年度の取組

- オンリーワン・ハイスクールによる具現化のための研究  
「新時代を拓く高校教育推進事業」の中で、「フューチャー・ハイスクール」の取組の一つとして浜松湖北高等学校佐久間分校、伊豆総合高等学校土肥分校を指定し、単位認定を伴う遠隔授業の活用、学びの機会を保障する遠隔授業の活用について研究を進めた。

## 5 令和 4 年度の取組

引き続きオンリーワン・ハイスクールによる遠隔授業の活用について研究を継続した。

(参考：委託事業「高等学校における次世代の学習ニーズを踏まえた指導の充実事業」について)

- 調査研究期間  
平成 30 年度から令和元年度までの 2 年間 (年度更新)

- 事業費 (全額国庫委託金) 単位：千円

R 1 実績額	H30 実績額	H29 実績額	H28 実績額
2, 446 千円	3, 116	2, 726	4, 894

- 調査研究校

単位認定を伴う遠隔授業の研究	大学・企業等との遠隔授業の研究
伊豆総合高等学校、土肥分校 浜松湖北高等学校、佐久間分校 川根高等学校	川根高等学校

- 令和元年度取組実績

(1) 実施内容

- ア 遠隔授業における指導方法の向上
- イ 単位認定方法の研究
- ウ 本格実施する教科・科目の検討
- エ 大学や企業等の連携先との継続的な遠隔授業の実施、効果の検証
- オ 遠隔教育フォーラムの開催

(2) 成果

機材の配置や活用方法が昨年度より洗練された。授業支援アプリケーションの活用によって、生徒の詳細な学習状況の把握が可能となり、遠隔授業の質が向上し、「教科・科目充実型遠隔授業」の実施が可能なレベルとなった。

- 平成 30 年度取組実績

(1) 実施内容

- ア 単位認定を伴う遠隔授業の研究
- イ 大学・企業等との遠隔授業の研究
- ウ ICT支援員の活用
- エ 遠隔教育サミットの開催

(2) 成果

遠隔授業実践の機器や授業スキルについて、課題の整理が進んだ。

# 県立川根高等学校における川根留学の取組

(高校教育課)

## 1 導入の経緯

川根地区の中学校卒業生数の減少が見込まれるなか、川根高等学校の学校規模の維持、活性化を目的に、平成 26 年度から県内の他地区から生徒を受け入れる「川根留学」を始めた。平成 30 年度からは、川根本町の意向及び協力のもと、県内で唯一、全国募集を実施している。

## 2 学校の概要

沿革	・昭和 38 年 4 月 静岡県立藤枝東高等学校 川根分校として設置 ・昭和 41 年 4 月 静岡県立川根高等学校として独立
学校規模	普通科 2 学級（1 学年 80 人募集） 収容定員 240 人
在籍生徒数 (R4)	1 年：32 人、2 年：38 人、3 年：38 人 計 108 人
出身中学校別 (割合) (R4)	①中川根 30 人 (27.8%)、②本川根 9 人 (8.3%)、③川根 7 人 (6.5%)、 ④その他 62 人 (57.4%) ※①②③は連携型中高一貫教育実施校（平成 14 年度～）
進路先 (R4.3 卒業生)	①大学・短大 27 人 (47.4%)、②専門学校 19 人 (33.3%)、 ③就職 10 人 (17.5%)、④その他 1 人 (0.2%) 卒業生計 57 人

## 3 川根留学の取組

(1) 入学者数及び地域の中学卒業生数の推移（当該地区中卒者数は川根高校学校要覧より引用）

高校 (募集定員)	当該地区中卒者数及び 当該高校入学者状況	実績 ←   → 推計											
		H31 R1	高3	高2	高1	中3	中2	中1	小6	小5	小4	小3	小2
川根 (80)	川根、中川根、本川根	55	66	63	49	60	50	45	75	64	63	45	62
	川根高校入学者数	61	41	43	32								
	内訳(地区内)	29	16	19	12								
	内訳(川根留学生:県内)	26	23	23	17								
	内訳(川根留学生:県外)	6	2	1	3								
	定員との差	▲19	▲39	▲37	▲48								

(2) 川根留學生の入学実績（県内：平成 26 年度入学者選抜～、全国：平成 30 年度入学者選抜～）

入学年度	H30			H31 (R1)			R 2			R 3			R 4		
	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女
留学生数 (人)	22	14	8	32	24	8	25	18	7	24	17	7	20	17	3
うち県外	0	-	-	6	4	2	2	2	-	1	1	-	3	1	2
県外生出身地	-			東京・埼玉・ 神奈川(2)・ 山梨・愛知			神奈川(2)			大阪			山梨・愛知・ フロンティア		
(参考) 県外志願者	0 人			8 人			3 人			1 人			4 人		

(3) 川根本町の取組み

全国募集開始にあたっては、川根本町が寄宿舎等の整備、公設民営塾の設置、奨学金の給付等を実施している。

#### 4 川根留学に係る学校の魅力化・県外広報等（主な取組）

(1) 令和3年度（実績） ※新型コロナウイルスの影響により大幅に変更があった

時期	内容
6月	・「地域みらい留学フェスタ」参加（オンライン）（6～9月）
7月	・川根高校魅力化推進連絡会（7、2月）（川根高校） ・1日体験入学（川根高校）
11月	・オープンスクール（川根高校）
1月	・ZOHJOジャパンとの連携によるIT研修（課題解決型のプロジェクトを通じ、プログラミング等を学ぶ）（1月～2月、全7回）
随時	・地域おこし協力隊（川根高校魅力化コーディネーター）との連携による広報等 ・（一財）地域・教育魅力化プラットフォーム（島根県）に引き続き加入し、同団体HP等で広報 ・SNS（インスタグラム、ツイッター、フェイスブック）を活用した広報活動の推進

(2) 令和2年度（実績） ※新型コロナウイルスの影響により当初予定から大幅に変更があった

時期	内容
4月	・川根本町が地域おこし協力隊（川根高校魅力化コーディネーター）を新規採用 ・川根高校が魅力化推進室を新設、町と連携強化した広報の取組み
6月	・川根高校魅力化推進連絡会（6、10、2月（予定））（川根高校） ・「地域みらい留学フェスタ」参加（オンライン）（7～10月）
9月	・1日体験入学（川根高校） ・Eジャーナルにて地域と連携した魅力化の取組について情報発信
10月	・県外生徒募集説明会（浜松・静岡）
11月	・オープンスクール（川根高校） ・川根留学制度紹介冊子「私たちがつくる、かわねStories」作成（川根本町）
12月	・ZOHJOとのオンライン交流「インドウィンタープログラム」（川根高校） ・大学と連携した地域魅力化（川根高校、県立大学、静岡大学、常葉大学）
随時	・（一財）地域・教育魅力化プラットフォーム（島根県）に引き続き加入し、同団体HP等で広報 ・SNS（インスタグラム、ツイッター、フェイスブック）を活用した広報活動の推進

(3) 令和元年度（実績）

時期	内容
5月	・川根高校魅力化推進連絡会（5、10、12月）（川根高校）
6月	・移住相談会（横浜） ・「一般財団法人地域・教育魅力化プラットフォーム」に加入し、「地域みらい留学フェスタ」（東京・名古屋）初参加（登録料は川根本町負担）
7月	・静岡県人会（東京） ・1日体験入学（川根高校）
8月	・移住フェア（東京）
10月	・県外生徒募集説明会（浜松・静岡）
11月	・オープンスクール（川根高校）
随時	・SNS（インスタグラム）を活用した広報活動の推進（県教育委員会広報戦略改善プロジェクトチームとの連携）

# 県立伊豆総合高等学校土肥分校の魅力化

(高校教育課)

## 1 概要

県立土肥高等学校においては、所在地域の中学校卒業生数の減少を受けて、当該地域の生徒の教育を受ける機会を保障しつつ、平成 29 年度に分校化を実施した。

対 象 校	県立土肥高等学校（普通科）
本 校	県立伊豆総合高等学校（工業科、総合学科） ・同一市内（伊豆市）の高校であること。 ・土肥高校は商業科を併置しており、伊豆総合高校の総合学科（商業系列）と教育内容の連携が可能である。

その後、平成 30 年度の入学者数が 6 名となり、静岡県立高等学校第三次長期計画に掲げる募集停止の基準人数(15 名)を下回ったことから、地域の連携の下、伊豆総合高等学校土肥分校の魅力化を一層推進するため、土肥分校魅力化推進協議会を設置し、平成 30 年 10 月に第 1 回協議会を開催した。

## 2 協議会構成員

- ・静岡県立伊豆総合高等学校土肥分校 校長、副校長、教頭、事務長、後援会会長、後援会副会長
- ・伊豆市立土肥小中一貫校 校長
- ・伊豆市教育委員会 教育部長、学校教育課長
- ・静岡県教育委員会高校教育課 学校づくり推進班長、学校づくり推進班主幹

## 3 協議題及び開催スケジュール

	開催時期	協議題
第 1 回	平成30年10月	○ 土肥分校の取組について、土肥分校の更なる魅力化について 等
第 2 回	平成30年11月	○ 第 1 回の内容を踏まえた土肥分校の取組(計画)について ○ 土肥分校へのサポートについて 等
第 3 回	令和元年 5 月	○ 入学者選抜の結果について、今後の対応について 等
第 4 回	令和元年10月	○ 地域及び行政が一体となった今後の取組について
第 5 回	令和 2 年 6 月	○ 下宿の公募について
第 6 回	令和 2 年 7 月	○ 下宿運営協議会の設置について
第 7 回	令和 3 年 6 月	○ 下宿整備の成果について ○ 県外募集の事例共有
第 8 回	令和 3 年 8 月	○ 県外募集を実施するための地域の取組について
第 9 回	令和 3 年 12 月	○ 県外募集のための取組のまとめと県への要望について

## 4 今年度の取組

- ・土肥地区外等広範囲からの生徒受入の推進（通学補助、下宿等の整備）
- ・e スポーツ部、ソフトテニス女子の裁量枠など特色ある活動の実施
- ・特色ある普通科教育の研究（観光、演劇、遠隔授業関係）
- ・オンリーワン・ハイスクールによる地域資源の活用による学びの充実

## 5 県外募集開始の要望

魅力化推進協議会において継続して検討してきた県外募集について、地域・伊豆市・学校の連携で県外募集を行う体制が整ったため、令和 4 年 1 月 7 日に魅力化推進協議会から県教育委員会に対し、県外募集実施の要望が提出された。

令和 4 年 1 月 13 日の教育委員会定例会において、令和 5 年度からの県外募集開始に向けて準備を進めることが報告された。

令和4年度当初より、地域みらい留学を活用した広報や伊豆市と連携した滞在型の体験入学の実施など、広く募集活動を開始している。

【地域における受入体制】

《地域住民》

- ・地域のペンションや旅館を活用した下宿の確保
- ・土肥留学生の生活をサポートするために「土肥分校サポーターズ」を発足（生活支援、地域資源を生かした体験プログラム、学習支援、地域行事参加のサポート）

《伊豆市》

- ・土肥留学生の家賃補助などの支援
- ・地域みらい留学(内閣府)を活用した広報の実施

《学校》

- ・オンリーワン・ハイスクール等を活用した土肥ならではの魅力ある学びの充実（遠隔授業の充実やマリンスポーツの実施）

《参考 今後の生徒数の推移》

	令和4年度学年→											
	高3	高2	高1	中3	中2	中1	小6	小5	小4	小3		
所在地域中卒者数及び 当該高校入学者の状況	31	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	
旧土肥町のみ	20	18	12	15	11	23	10	10	11	12	9	
募集定員	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	
入学者数	21	7	16	22								
定員との差	▲14	▲28	▲19	▲13								

# 県立浜松湖北高等学校佐久間分校の魅力化

(高校教育課)

## 1 概要

県立佐久間高等学校においては、所在地域の中学校卒業者数の減少を受けて、当該地域の生徒の教育を受ける機会を保障しつつ、平成 29 年度に分校化を実施した。

その後、平成 31 年度の入学者数が 14 名となり、静岡県立高等学校第三次長期計画に掲げる募集停止の基準人数(15 名)を下回ったことから、地域の連携の下、佐久間分校の魅力化を一層推進するため、令和元年 7 月に佐久間分校魅力化推進協議会を設置した。

## 2 佐久間分校魅力化推進協議会の構成員

- ・ 静岡県立浜松湖北高等学校 校長、事務長
- ・ 静岡県立浜松湖北高等学校佐久間分校 副校長、教頭、PTA 会長、同窓会正副会長
- ・ 佐久間分校魅力化委員会 地元 NPO、自治会長、中学校長、小学校長、協働センター所長、東栄町地域支援課長
- ・ 浜松市教育委員会 教育部次長、企画グループ長
- ・ 静岡県教育委員会高校教育課 学校づくり推進室長、企画班教育主査

## 3 【令和元年以降】魅力化推進協議会の開催スケジュール

年度	回	開催時期	協議題
令和元年度	第 1 回	R1、7 月	○ 佐久間分校の取組について ○ 佐久間分校の更なる魅力化について 等
	第 2 回	R1、10 月	○ 寄宿舎運営協議会による啓成寮再開に向けた具体的取組案について(費用、役割、課題など)
令和 2 年度	第 1 回	R2、6 月	○ 佐久間分校の募集継続について ○ 佐久間分校の更なる魅力化について 等
令和 3 年度	第 1 回	R3、11 月	○ 啓成寮の定員オーバーの懸念と下宿募集について ○ 佐久間分校の更なる魅力化について 等

## 4 令和 3、4 年度生徒募集の結果

2 年連続して入学者が 15 人を下回った(H31:14 人、R2:14 人)が、地元や学校からは募集継続の要望は強く、財政協議・出野副知事協議を経て、特例的に令和 3 年度の募集を実施することとなった。それを受けて学校の魅力化を推進した結果、令和 3 年度は 19 人(新入寮生 9 人を含む)、令和 4 年度は 21 人(新入寮生 4 人、下宿 2 人)の入学者を確保した。

《参考 今後の生徒数の推移》 (学校基本調査集計前のため令和 3 年 5 月 1 日現在のデータ)

高校名	所在地域中卒者数及び当該高校入学者の状況	令和 4 年度学年→														
		28	29	30	31	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
佐久間高校 →H29から分校	旧佐久間、水窪町	31	32	26	28	18	11	19	18	11	9	19	9	13	11	8
	募集定員	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40
	入学者数	26	19	24	14	14	19	21								
	定員との差	▲ 14	▲ 21	▲ 16	▲ 26	▲ 26	▲ 21	▲ 19								

※入学者数は所在地域以外からの入学者も含む

確定値→一見込み及び推計値

児童生徒数はR4.5.1現在(学校基本調査)

# 教職員の研修

(教育政策課)

## 1 概要

「静岡県教育振興基本計画」に則り、誰一人取り残さない教育を実現し、気品をたたえ、調和した人格を持ち、また、「富士」の字義にふさわしい物と心の豊かさをともに実現する「有徳の人」を育成するため、静岡県教員育成協議会において、「静岡県教員等育成指標」及び「静岡県教員研修計画」を策定し、静岡県の教員に求められる資質能力の育成に取り組む。

## 2 研修実施の方針

### (1) 個別最適な学び・協働的な学び、時代の変化に対応した学びの実現

様々な教育課題に対応する専門的な研修の実施、「主体的・対話的で深い学び」や「協働的な学び」の実現、ICT活用指導力の向上、個別最適化された学びへの対応、地域・企業等との連携等による。

### (2) キャリアステージに応じた資質能力の向上

初任者研修や中堅教諭等資質向上研修等の年次別研修の実施、キャリアデザイン研修等の実施、大学・教職大学院・研究機関・民間企業・在外教育施設等への派遣研修の実施等による。

### (3) 効果的・効率的な研修の実施

集合型研修とオンライン研修とのベストミックスによる効果的な研修の実施、日常的・組織的なチーム研修やメンター方式の研修の充実、校外研修の精選、校内研修と校外研修の関係付け、研修と実践の往還、学校等支援研修の充実、オンライン研修の拡充等による。

### (4) 関係機関との連携・協働

高等教育機関や民間企業との連携、研修機会や研修講師の充実、静岡県や地域の課題解決に資する研修の実施等による。

## 3 令和4年度の重点取組

### (1) 子供たちに信頼され、一人一人の夢の実現へと導く力（教育的素養・総合的人間力）の向上

テーマ	新規	研修名
非認知能力		「学びに向かう力、人間性」等実践研修
メタ認知能力	○	子どもの「学びに向かう力」を支える非認知能力涵養研修
メンタルヘルス		新任管理者メンタルヘルス研修 新任管理者メンタルヘルス研修
レジリエンス		不登校の未然防止ー子どもたちのレジリエンスに着目してー（再掲）
人権教育（ICTモラル教育を含む）		人権教育担当者研修会 人権教育指導者研修会 情報モラル教育実践研修
コンプライアンス		コンプライアンス研修（eラーニング） 情報セキュリティ入門（eラーニング）

(上記研修以外にも、悉皆研修である年次別研修等でこれらの資質能力の向上を図る。)

(2) 一人一人の子供たちに個別最適な学びと協働的な学びを提供するために必要な資質能力（授業力・生徒指導力）の向上

テーマ	新規	研修名
ICT活用		G I G Aスクール構想とICT機器を活用した授業実践研修（基礎編）
	○	G I G Aスクール構想とICT機器を活用した授業実践研修（発展編）
	○	個別最適な学びに向けたICTの活用（基礎編）
		小中学校におけるG I G Aスクールサポート研修
		ICT活用授業力向上研修(高)（特）
	ICT活用研修（入門編）（基礎編）（実践編）	
「主体的・対話的で深い学び」 学習科学	○	「主体的・対話的で深い学び」を支える授業研究
		学習科学の考え方を生かした学びの計画・実践
ファシリテートスキル	○	探究指導者養成研修－総合的な探究の時間の充実に向けて－
		マネジメント講座8－会議・話し合いを促進するファシリテーターの役割－
不登校対応		教育相談の基本姿勢－聴くということ－
		保護者との効果的な教育相談
		明日から使える学校カウンセリングスキル
		不登校の未然防止－子どもたちのレジリエンスに着目して－（再掲）
		不登校対応におけるチーム支援の在り方
	集団における「気になる子」の理解と効果的な支援－教育相談的な視点から－	
特別支援教育		障害のある子どもの保護者支援－基礎的理解から支援の実践へ－
		子どもの困難さへのアプローチ－発達を支える指導の充実－
		インクルーシブ保育研修

（上記研修以外にも、悉皆研修である年次別研修等でこれらの資質能力の向上を図る。）

(3) 社会環境の変化に適時適切・柔軟に対応する資質能力（授業力、生徒指導力、教育業務遂行力）の向上

テーマ	新規	研修名
働き方改革 業務改善（DX含む）	○	マネジメント講座6－これからの学校における働き方改革－ 業務改善「夢」コーディネーター研修
		働き方改革推進研修
SDGs（環境教育）	○	SDGs研修～富士山の生物の多様性～
ヤングケアラー	○	ヤングケアラー支援のための資質向上研修
地域連携		未来へ続く学校づくり研修
大学との連携による 専門的研修		静岡大学教職大学院連携研修
		常葉大学教職大学院連携研修

派遣研修（民間、行政、大学、センター等）		民間企業等長期派遣研修
		大学・大学院派遣
		教職員等海外派遣研修（Ⅰ・Ⅱ）
		総合教育センター長期研修

（上記研修以外にも、これらの資質能力の向上を図る研修がある。）

（４）安定的かつ持続可能な組織運営を実現するために必要な資質能力（組織運営力）の向上

テーマ	新規	研修名
危機管理		マネジメント講座1－労務管理と危機管理－
		マネジメント講座10－知っておきたい学校事故と情報公開－
人材育成	○	キャリアデザイン研修Ⅰ
		キャリアデザイン研修Ⅱ
		マネジメント講座4－組織の活性化と管理者の役割－
		マネジメント講座5－職場における人材育成－
	○	マネジメント講座7－リーダーシップ開発－
学校事務職員の学校経営参画	○	幼児教育マネジメント研修
	○	事務職員のための学校マネジメント強化研修

（上記研修以外にも、これらの資質能力の向上を図る研修がある。）

#### 4 教育公務員特例法及び教育職員免許法の一部改正に伴う対応

##### （１）概要

「教育公務員特例法及び教育職員免許法の一部を改正する法律」の成立（令和4年5月11日）を受け、県として以下の対応が必要。

ア 校長及び教員ごとに研修の受講その他の当該校長及び教員の資質の向上のための取組の状況に関する記録（以下「研修等に関する記録」）を作成

\* 「研修等に関する記録」には、当該校長及び教員が受講した研修実施者（任命権者）実施研修に関する事項等を記載。

イ 公立の小学校等の校長及び教員の指導助言者（県立学校の校長及び教員については県教育委員会、県費負担教職員については市町教育委員会）に対する、当該校長及び教員の研修等に関する記録に係る情報の提供

ウ 公立の小学校等の校長及び教員の指導助言者による、当該校長及び教員の資質の向上に関する指導助言等の実施

エ 教員研修計画に、(3)の方法に関して必要な事項（対象となる教師の範囲、研修履歴の記録の目的、研修履歴の記録の範囲、研修履歴の記録の内容、研修履歴の記録の方法、研修履歴の記録の閲覧・提供、対話に基づく受講奨励の方法・時期、学校内で行う研修履歴の記録と学校管理職以外の教師による対話に基づく受講奨励等）を記載

(2) 対応のスケジュール

○教育公務員特例法関連

令和4年	7月22日	□第1回静岡県教員育成協議会	「教育公務員特例法及び教育職員免許法の一部改正に伴う対応（案）」について協議
	夏	「研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励に関するガイドライン」（仮称）の策定（文部科学省）	研修等に関する記録や資質の向上に関する指導助言等の具体的運用に係る内容
	11月10日	■静岡県教員育成協議会第2回研修部会	「令和5年度教員研修計画（案）」及び「研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励に関する基本的な考え方（案）」について協議
令和5年	1月24日	□第2回静岡県教員育成協議会	同上
	2月	○静岡県教育委員会定例会	「令和5年度教員研修計画」及び「研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励に関する基本的な考え方」について報告
		各市町教育委員会及び各学校に通知	「令和5年度教員研修計画」及び「研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励に関する基本的な考え方」について通知
	4月1日	改正法施行	
	年度内	国による研修履歴を記録する全国的な情報システムの構築	

○教育職員免許法関連

令和4年	7月1日	改正法施行 ・静岡県手数料徴収条例、同施行規則、関係教育委員会規則の改正 ・現行制度下で失効した免許の再発行申請など、免許再発行、規則改正、制度改正等に伴い必要となる諸手続きの実施及び各種照会への対応
------	------	--

(3) 対応（案）

- ア 研修等に関する記録の作成及び指導助言者に対する、校長及び教員の研修等に関する記録に係る情報の提供は、引き続き研修管理システムにより実施する。
- イ 資質の向上に関する指導助言等の方法に関して必要な事項として、研修等に関する記録の目的・範囲・内容・方法、受講奨励の方法・時期等を定め、市町教育委員会及び各学校に周知するとともに、教員研修計画に記載する。

## 社会人の任用

(高校教育課)

令和4年度予算	事業名	高校教育民間活力導入推進費	予算額	17,000千円
---------	-----	---------------	-----	----------

### 1 現状

(1) 任用の趣旨：先端技術関連企業等の有能な専門技術職員や、国内外で活躍し、専門的な知識や技能を有する人材を「特別教諭」として招へいし、より幅広い視野に立った教育の推進を図り、自らの人生を積極的に切り拓いていくことができる生徒を育成する。

(2) 当初予算措置：

年度	R3	R2	R1	30	29	28
当初予算額(千円)	17,000	17,000	17,000	17,000	17,000	17,000

(3) 任用期間：原則として1年。ただし、必要に応じ更新可。

(4) 身分：出向元の身分と受入れ校の身分を併せ持つ。

(5) 服務：受入れ校の規定により、一般教員と同様。

(6) 給与：出向元が本人に支給。県は現給保障または県の基準により算定した額を負担金として出向元に支払う。

(7) 実績：昭和60年11月～

年度	R3	R2	R1	H30	H29	H28	H27
受入人数	2	2	2	2	2	2	2

### 2 効果

(1) 高い専門性と広い視野を持つ特別教諭を配置することによって、学校教育全体及び部活動に好影響が生まれ、生徒だけではなく他の教員にも有益な影響を与えている。

(2) 企業の技術分野で開発設計等の業務に携わっている特別教諭から、実際の装置や機器の現状等、現在の技術に即した指導を受けることにより、生徒の学習意欲の向上につながっている。また、難度の高い資格試験の指導等においても、その能力や力量が有効に活用されている。

### 3 現在の特別教諭と受入れ校（令和4年度）

吉原工業高校（工業）	坂上 行男	55	明電舎	【継続】
掛川工業高校（工業）	小林 尚弘	59	ヤマハ発動機	【継続】

### 4 今後の課題

(1) 事業推進費の継続確保

(2) 東・中・西各地域への均等配置（現在、東部：1、中部：0、西部：1）

(3) 特別教諭の知見等の効果的活用

# 公立学校施設における空調（冷房）設備設置状況

(教育施設課)

(概要)

公立学校施設における空調（冷房）設備設置状況は、平成10年度より文部科学省において全国調査を実施している。直近の調査は、令和4年9月1日現在の調査であるため、次にその調査結果より本県の状況を示す。一部の項目は集計中であるため、令和2年9月1日現在の数値とする。

## 1 校舎

### (1) 小・中学校

本県公立小中学校の空調（冷房）設備設置状況の速報値は、普通教室では10,887室のうち10,885室で**99.9%**、特別教室では10,078室のうち3,708室で**36.8%**となっている。

県内の市町別に見ると、普通教室の設置率は、県内35市町のうち34市町が100%、特別教室の設置率は、吉田町の100%が最も高くなっている。

(令和4年9月1日現在)

区 分		普通教室				特別教室			
		保有室数	設置室数	設置率	R2 調査	保有室数	設置室数	設置率	R2 調査
小 中 学 校	静岡県	10,887	10,885	<b>99.9%</b>	<b>90.8%</b>	10,078	3,708	<b>36.8%</b>	<b>32.5%</b>
	市町立	10,865	10,863	99.9%	90.8%	10,075	3,707	36.8%	32.5%
	県立	22	22	100.0%	100.0%	3	1	33.3%	33.3%
	全国 (R2.9.1)	382,666	354,998	92.8%	—	372,309	206,663	55.5%	—

### (2) 高等学校、特別支援学校

本県公立高等学校（県立、市立）の空調（冷房）設備設置状況は、普通教室では、2,139室のうち2,139室で**100.0%**、特別教室では、2,686室のうち**38.8%**と低い。

県立特別支援学校の空調（冷房）設備設置状況(R2.9)は、普通教室では、**100.0%**、特別教室では、**77.1%**となっている。

なお、県立高校の特別教室については令和6年6月末までに空調設備を設置する予定である。

(令和4年9月1日現在)

区 分		普通教室				特別教室			
		保有室数	設置室数	設置率	R2 調査	保有室数	設置室数	設置率	R2 調査
高 校	静岡県	2,139	2,139	100.0%	<b>65.4%</b>	2,686	1,042	<b>38.8%</b>	<b>36.6%</b>
	県立	2,028	2,028	100.0%	63.6%	2,528	915	36.2%	33.6%
	市立	111	111	100.0%	98.2%	158	127	80.4%	84.1%
	全国 (R2.9.1)	64,796	56,359	87.0%	—	119,987	56,181	46.8%	—
特 支	静岡県 (R2.9.1)	869	869	100.0%	—	407	314	77.1%	—
	全国 (R2.9.1)	28,872	27,387	94.9%	—	20,382	17,208	84.4%	—

## 2 体育館等

### (1) 小・中学校

本県公立小中学校の空調（冷房）設備設置状況は、体育館では、936 室のうち 19 室で 2.0% となっている。県内の市町別に見ると、長泉町及び吉田町の 100%が最も高くなっている。

(令和4年9月1日現在)

区 分		体育館等			
		保有室数	設置室数	設置率	R2 調査
小 中 学 校	静岡県	936	19	1.3%	1.3%
	市町立	935	19	1.3%	1.3%
	県立	1	0	0%	0%
	全国 (R2.9.1)	33,096	1,761	5.3%	—

### (2) 高等学校、特別支援学校

本県の高等学校及び特別支援学校の空調（冷房）設備設置状況は、体育館では、高等学校は 290 室のうち 3 室で 1.0%、特別支援学校(R2.9)は 24 室のうち 0 室で 0%となっている。

(令和4年9月1日現在)

区 分		体育館等			
		保有室数	設置室数	設置率	R2 調査
高 校	静岡県	290	3	1.0%	1.0%
	県立	271	3	1.1%	1.1%
	市立	19	0	0.0%	0.0%
	全国 (R2.9.1)	10,136	338	3.3%	—
特 支	静岡県 (R2.9.1)	24	0	0.0%	0.0%
	全国 (R2.9.1)	1,120	245	21.9%	22.4%

※この調査の体育館等には、屋内の弓道場、卓球場、トレーニングルーム、アリーナ及び武道場を含む。

## 1-3-3-1 空調(冷房)設備設置状況調査 高校集計

令和4年9月1日現在

		普通教室			特別教室等			体育館等		
		保有 教室数 (A)	空調 設置 室数 (B)	空調 未設置 室数 (C)	保有 教室数 (A)	空調 設置 室数 (B)	空調 未設置 室数 (C)	保有 教室数 (A)	空調 設置 室数 (B)	空調 未設置 室数 (C)
1	下田	27	27	0	18	7	11	4	0	4
2	南伊豆分校	3	3	0	11	3	8	1	0	1
3	松崎	15	15	0	17	4	13	2	0	2
4	稲取	15	15	0	17	3	14	3	0	3
5	伊東	23	23	0	31	10	21	1	0	1
6	城ヶ崎分校	8	8	0	19	5	14	3	0	3
7	伊東商業	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8	熱海	15	15	0	17	4	13	3	0	3
9	伊豆総合	22	22	0	53	18	35	5	0	5
10	土肥分校	7	7	0	19	6	13	2	0	2
11	韭山	27	27	0	24	13	11	3	0	3
12	伊豆中央	22	22	0	21	5	16	1	0	1
13	田方農業	15	15	0	42	14	28	3	0	3
14	三島南	23	23	0	25	15	10	4	1	3
15	三島北	23	23	0	17	7	10	3	0	3
16	三島長陵	22	22	0	18	9	9	2	0	2
17	御殿場	20	20	0	11	3	8	3	0	3
18	御殿場南	20	20	0	16	5	11	3	0	3
19	小山	22	22	0	18	7	11	3	0	3
20	裾野	21	21	0	20	9	11	2	0	2
21	沼津東	29	29	0	14	4	10	2	0	2
22	沼津西	24	24	0	40	29	11	2	0	2
23	沼津城北	18	18	0	20	5	15	4	0	4
24	沼津工業	23	23	0	75	23	52	4	0	4
25	沼津商業	24	24	0	26	13	13	3	0	3
26	吉原	23	23	0	19	6	13	2	0	2
27	吉原工業	22	22	0	66	19	47	6	0	6
28	富士	31	31	0	18	7	11	3	0	3
29	富士東	25	25	0	18	7	11	3	0	3
30	富士宮東	21	21	0	24	5	19	2	0	2
31	富士宮北	21	21	0	18	8	10	3	0	3
32	富士宮西	26	26	0	21	5	16	2	0	2
33	富岳館	22	22	0	22	10	12	2	0	2
34	清水東	28	28	0	15	10	5	3	0	3
35	清水西	25	25	0	11	1	10	3	0	3
36	清水南	14	14	0	35	26	9	2	0	2
37	静岡	29	29	0	19	8	11	5	0	5
38	静岡城北	27	27	0	22	6	16	3	0	3
39	静岡東	27	27	0	18	9	9	5	0	5
40	静岡西	25	25	0	20	5	15	3	0	3
41	駿河総合	30	30	0	38	16	22	3	0	3
42	静岡農業	18	18	0	55	15	40	4	0	4
43	科学技術	30	30	0	118	46	72	3	0	3
44	静岡商業	24	24	0	27	12	15	5	0	5
45	静岡中央	27	27	0	26	13	13	4	0	4

	普通教室			特別教室等			体育館等		
	保有 教室数 (A)	空調 設置 室数 (B)	空調 未設置 室数 (C)	保有 教室数 (A)	空調 設置 室数 (B)	空調 未設置 室数 (C)	保有 教室数 (A)	空調 設置 室数 (B)	空調 未設置 室数 (C)
46 焼津中央	23	23	0	21	6	15	3	0	3
47 焼津水産	22	22	0	53	13	40	3	0	3
48 清流館	22	22	0	26	12	14	3	0	3
49 藤枝東	24	24	0	17	6	11	2	0	2
50 藤枝西	21	21	0	20	6	14	5	2	3
51 藤枝北	17	17	0	45	13	32	3	0	3
52 島田	23	23	0	16	4	12	3	0	3
53 島田工業	20	20	0	63	35	28	3	0	3
54 島田商業	20	20	0	30	20	10	4	0	4
55 金谷	15	15	0	16	5	11	2	0	2
56 川根	12	12	0	16	3	13	2	0	2
57 榛原	25	25	0	19	3	16	2	0	2
58 相良	24	24	0	27	16	11	3	0	3
59 掛川東	26	26	0	19	5	14	3	0	3
60 掛川西	30	30	0	15	15	0	3	0	3
61 掛川工業	23	23	0	67	21	46	2	0	2
62 横須賀	20	20	0	20	11	9	2	0	2
63 池新田	24	24	0	18	6	12	3	0	3
64 小笠	24	24	0	39	12	27	4	0	4
65 遠江総合	24	24	0	47	21	26	3	0	3
66 袋井	28	28	0	17	4	13	5	0	5
67 袋井商業	20	20	0	14	2	12	3	0	3
68 磐田南	28	28	0	21	3	18	1	0	1
69 磐田北	28	28	0	35	12	23	4	0	4
70 磐田農業	16	16	0	49	12	37	4	0	4
71 磐田西	24	24	0	23	11	12	3	0	3
72 天竜	24	24	0	46	14	32	3	0	3
73 春野校舎	8	8	0	16	2	14	2	0	2
74 浜松北	31	31	0	19	8	11	3	0	3
75 浜松西	19	19	0	16	4	12	3	0	3
76 浜松南	33	33	0	17	5	12	3	0	3
77 浜松湖東	27	27	0	15	4	11	3	0	3
78 浜松湖南	32	32	0	18	6	12	3	0	3
79 浜松江之島	24	24	0	24	7	17	3	0	3
80 浜松東	25	25	0	25	8	17	4	0	4
81 浜松大平台	34	34	0	43	24	19	4	0	4
82 浜松工業	31	31	0	83	23	60	4	0	4
83 浜松城北工	27	27	0	66	17	49	4	0	4
84 浜松商業	29	29	0	27	14	13	4	0	4
85 浜名	30	30	0	24	8	16	4	0	4
86 浜北西	24	24	0	16	3	13	1	0	1
87 浜松湖北	27	27	0	59	19	40	3	0	3
88 佐久間分校	6	6	0	16	5	11	3	0	3
89 新居	27	27	0	28	8	20	4	0	4
90 湖西	24	24	0	18	4	14	4	0	4

1-3-3-2 空調(冷房)設備設置状況調査 特支集計

※「他施設内に設置している分校」

令和2年9月1日現在

	普通教室			特別教室等			体育館等		
	(a)保有教室数	設置済室数 (b)	未設置室数 (c)	(a)保有教室数	設置済室数 (b)	未設置室数 (c)	(a)保有教室数	設置済室数 (b)	未設置室数 (c)
	(a) = (b) + (c)			(a) = (b) + (c)			(a) = (b) + (c)		
1 沼津視覚	14	14	0	13	5	8	1	0	1
2 静岡視覚	11	11	0	14	5	9	1	0	1
3 浜松視覚	19	19	0	28	26	2	2	0	2
4 沼津聴覚	26	26	0	33	11	22	1	0	1
5 静岡聴覚	18	18	0	9	4	5	1	0	1
6 浜松聴覚	23	23	0	17	17	0	1	0	1
7 御殿場特支	41	41	0	10	10	0	1	0	1
8 沼津特支	40	40	0	9	9	0	1	0	1
9 富士特支	58	58	0	8	8	0	1	0	1
10 静岡北特支	48	48	0	8	8	0	1	0	1
11 藤枝特支	51	51	0	20	9	11	1	0	1
12 袋井特支	39	39	0	18	18	0	1	0	1
13 浜松特支	37	37	0	14	14	0	1	0	1
14 浜名特支	20	20	0	13	13	0	1	0	1
15 東部特支	32	32	0	19	19	0	0	0	0
16 中央特支	37	37	0	7	3	4	1	0	1
17 静岡南部特支	15	15	0	9	8	1	1	0	1
18 西部特支	40	40	0	20	20	0	1	0	1
19 天竜特支	21	21	0	13	9	4	1	0	1
20 浜北特支	50	50	0	13	5	8	1	0	1
21 清水特支	40	40	0	19	19	0	1	0	1
22 吉田特支	44	44	0	22	11	11	1	0	1
23 掛川特支	50	50	0	16	16	0	1	0	1
本校 計	774	774	0	352	267	85	23	0	23
1 伊豆田方分校	3	3	0	2	2	0	0	0	0
2 愛鷹分校	6	6	0	4	4	0	0	0	0
3 富士宮分校	9	9	0	4	4	0	0	0	0
4 南の丘分校	6	6	0	6	6	0	0	0	0
5 焼津分校	6	6	0	3	2	1	0	0	0
6 御前崎分校	6	6	0	3	3	0	0	0	0
7 磐田見付分校	6	6	0	6	6	0	0	0	0
8 磐田分校	10	10	0	4	4	0	0	0	0
9 城北分校	6	6	0	7	7	0	0	0	0
10 川奈分校	11	11	0	4	2	2	1	0	1
11 伊東分校	8	8	0	3	2	1	0	0	0
12 伊豆高原分校	7	7	0	2	2	0	0	0	0
13 伊豆下田分校	7	7	0	3	1	2	0	0	0
14 伊豆松崎分校	2	2	0	3	1	2	0	0	0
分校 計	57	57	0	40	37	3	0	0	0
合計(*除く)	831	831	0	392	304	88	23	0	23
駿遠分教室	2	2	0	1	1	0	0	0	0
合計(*含む)	869	869	0	407	314	93	24	0	24

1-3-3-3 空調(冷房)設備設置状況調査 小中学校

令和4年9月1日現在

	普通教室			特別教室等			体育館等		
	保有 教室数 (A)	空調 設置 室数 (B)	空調 未設置 室数 (C)	保有 教室数 (A)	空調 設置 室数 (B)	空調 未設置 室数 (C)	保有 教室数 (A)	空調 設置 室数 (B)	空調 未設置 室数 (C)
1 静岡県	22	22	0	3	1	2	1	0	1
2 静岡市	1798	1798	0	1589	306	1283	191	0	191
3 浜松市	2443	2443	0	2040	554	1486	167	0	167
4 沼津市	481	481	0	674	157	517	42	0	42
5 熱海市	79	79	0	115	50	65	9	0	9
6 三島市	311	311	0	335	153	182	28	0	28
7 富士宮市	410	410	0	387	322	65	36	0	36
8 伊東市	149	149	0	277	64	213	16	0	16
9 島田市	309	309	0	283	101	182	30	0	30
10 富士市	720	720	0	567	57	510	54	0	54
11 磐田市	548	548	0	479	169	310	43	0	43
12 焼津市	378	378	0	349	317	32	31	0	31
13 掛川市	406	406	0	424	82	342	39	7	32
14 藤枝市	439	439	0	336	161	175	37	0	37
15 御殿場市	274	274	0	246	129	117	17	0	17
16 袋井市	332	330	2	182	130	52	20	0	20
17 下田市	65	65	0	91	40	51	9	0	9
18 裾野市	172	172	0	182	51	131	18	0	18
19 湖西市	188	188	0	123	73	50	16	0	16
20 伊豆市	92	92	0	122	65	57	14	0	14
21 御前崎市	93	93	0	81	34	47	10	0	10
22 菊川市	167	167	0	139	48	91	12	0	12
23 伊豆の国市	154	154	0	126	121	5	10	0	10
24 牧之原市	119	119	0	138	74	64	12	0	12
25 東伊豆町	25	25	0	72	22	50	4	0	4
26 河津町	28	28	0	37	25	12	1	0	1
27 南伊豆町	31	31	0	51	10	41	5	0	5
28 松崎町	19	19	0	23	3	20	2	0	2
29 西伊豆町	23	23	0	39	10	29	4	0	4
30 函南町	109	109	0	98	77	21	11	0	11
31 清水町	94	94	0	75	28	47	5	0	5
32 長泉町	142	142	0	76	75	1	7	7	0
33 小山町	68	68	0	83	71	12	11	0	11
34 吉田町	92	92	0	55	55	0	5	5	0
35 川根本町	19	19	0	76	30	46	6	0	6
36 森町	60	60	0	62	29	33	5	0	5
37 牧之原市菊川市学校組合	13	13	0	23	11	12	2	0	2
38 御前崎市牧之原市学校組合	15	15	0	20	3	17	2	0	2

# 公立学校施設のトイレ状況

(教育施設課)

## 1 概 要

生活様式の変化に伴い自宅トイレの洋式化が進み、学校トイレの洋式化の要望が年々強くなっている。その一方で、校舎等の建物は昭和30～50年代に建てられたものが多く、そのほとんどは和式となっている。

こうしたトイレの環境改善のため、県立学校では、平成27年度から洋式化事業を実施しているほか、老朽化した建物の建替え・改修の機会を捉えて、洋式化・乾式化等を含むトイレの全面リニューアルを実施している。

また、令和2年度には新型コロナウイルス感染症対策として、和便器よりも汚水の飛散を抑えることができることから洋便器化工事を実施し、特別支援学校の洋便器率100%を達成した。

さらに、今後は県立高校の魅力化向上の取組みとして、専門家等の意見を取り入れながら、配置、レイアウト、色彩、仕様等を検討して生徒に好まれる使いやすいトイレへ改修していく。

## 2 幼稚園、小中学校のトイレ状況

(令和2年9月現在)

区 分	幼稚園（こども園含む）		小学校		中学校		小中学校計	
	和便器数	洋便器数	和便器数	洋便器数	和便器数	洋便器数	和便器数	洋便器数
校 舎	625	2,230	9,732	12,942	5,435	6,383	15,167	19,325
	洋便器率	78.1%	洋便器率	57.0%	洋便器率	54.0%	洋便器率	56.0%
体育館 ・武道場	7	21	970	917	750	703	1,720	1,620
	洋便器率	75.0%	洋便器率	48.6%	洋便器率	48.4%	洋便器率	48.5%
屋外トイレ 等	72	71	1,463	444	893	277	2,356	721
	洋便器率	49.6%	洋便器率	23.2%	洋便器率	23.6%	洋便器率	23.4%
合 計	704	2,322	12,165	14,303	7,038	7,363	19,243	21,666
	洋便器率	76.7%	洋便器率	54.0%	洋便器率	50.9%	洋便器率	52.9%

## 3 県立学校のトイレ状況

(令和4年8月現在)

区 分	高等学校			特別支援学校			県立学校計		
	和便器数	洋便器数	うち多目的	和便器数	洋便器数	うち多目的	和便器数	洋便器数	うち多目的
校 舎	2,925	2,697	113	0	1,375	58	2,925	4,072	171
	洋便器率	48.0%		洋便器率	100.0%		洋便器率	58.2%	
体育館 ・武道場	165	104	14	0	52	9	165	156	23
	洋便器率	38.7%		洋便器率	100.0%		洋便器率	48.6%	
屋外トイレ 等	1,033	381	22	0	192	11	1,033	573	33
	洋便器率	26.9%		洋便器率	100.0%		洋便器率	35.7%	
合 計	4,123	3,182	149	0	1,619	78	4,123	4,801	227
	洋便器率	43.6%		洋便器率	100.0%		洋便器率	53.8%	

注1) 屋外トイレ等には、プール附属棟、部室棟、生活館、記念館、寄宿舎等を含む。

注2) 「多目的」は、男女どちらでも利用でき、かつ車いす使用者が利用できる広さを有したトイレを指す。

#### 4 県立学校トイレの改修メニュー

(1) 便器の洋式化

和便器を洋便器に改修する。

(2) 床の乾式化

従来は床に放水して清掃する「湿式」が主流であったが、建替えや大規模改修の際には、モップを絞って清掃する「乾式」に改修する。

(3) 配管等の設備更新

古いトイレが臭いのは、配管や換気扇など、便器以外の設備が原因であることが多いため、床の乾式化にあわせて配管類の更新を実施する。

(4) 温水洗浄便座

大規模な改修時には、来客用トイレに温水洗浄便座、温便座、擬音装置等を導入している。ただし、生徒用への導入には保守管理面の課題がある。

#### 5 トイレ洋式化事業（県立学校）

平成 27 年度から、建築後 16 年以上 40 年未満の校舎のトイレを 50%以上洋式に改修する工事を、3か年計画で実施した。その結果、高等学校の校舎全体の洋便器率は 43.6%となった。

(1) 築年数別の洋便器率

(平成 30 年 5 月現在)

区分	校数	洋便器率			
		校舎	体育館	屋外トイレ	合計
高等学校	90	43.5%	36.1%	23.9%	39.5%
築41年以上	56	35.3%	29.2%	23.1%	32.5%
築16～40年	21	51.2%	10.0%	18.3%	44.0%
築15年未満	13	62.8%	63.3%	42.0%	60.6%
特別支援学校	28	71.4%	66.7%	52.9%	69.2%
築41年以上	5	58.7%	0.0%	33.3%	53.4%
築16～40年	14	67.6%	60.0%	50.0%	65.4%
築15年未満	9	82.3%	67.7%	81.1%	81.2%
<b>県立学校計</b>	<b>118</b>	<b>48.1%</b>	<b>39.6%</b>	<b>27.2%</b>	<b>44.0%</b>

注) 他施設の空き教室等を借用している特別支援学校の分校9校を除く。

(2) 校舎の洋便器率の推移

区分	H27			H28	H29	H29事業終了時点	
	洋便器数	洋便器率	整備数	整備数	整備数	洋便器数	洋便器率
高等学校	1,849	32.0%	173	175	321	2,518	43.5%
築41年以上	980	27.8%	57	19	191	1,247	35.3%
築16～40年	240	19.1%	116	156	130	642	51.2%
築15年未満	629	62.8%	0	0	0	629	62.8%
特別支援学校	723	64.1%	55	25	12	815	71.4%
築41年以上	66	47.8%	15	0	0	81	58.7%
築16～40年	361	57.9%	40	9	12	422	67.6%
築15年未満	296	80.9%	0	16	0	312	82.3%
<b>県立学校計</b>	<b>2,572</b>	<b>37.2%</b>	<b>228</b>	<b>200</b>	<b>333</b>	<b>3,333</b>	<b>48.1%</b>

※洋式化事業以外の主なトイレ改修事業

H27：富士宮西高等学校（築41年以上）校舎トイレ改修

H28：西部特別支援学校移転新築

H29：高等学校6校の校舎（築41年以上）の長寿命化改修

## 6 新型コロナウイルス感染症対策

令和2年度からは、新型コロナウイルス感染症対策として、繁殖した雑菌が汚水に混じって床に飛び散りやすい和式便器を洋便器化し、トイレをより衛生的な環境に改修した。

これにより、特別支援学校においては、洋便器率100%を達成し、県立高校においては、校舎内の各トイレに洋式便器が1基以上となるよう整備した。

## 7 今後の整備計画

中長期整備計画において想定している中規模改修（寿命を80年に伸ばすために行う計画保全）のなかで、機能向上の主要メニューとして実施していく。

また、今後は県立高校の魅力化向上の取組として、これまで実施してきた便器の洋式化や乾式化に加えて、学校トイレ研究会などの専門家や生徒等の意見を取り入れながら、配置、レイアウト、色彩、仕様等を検討し、生徒に好まれる使いやすいトイレに改修していく。

1-3-6-1 公立学校施設(県立高等学校)のトイレ状況

(令和4年8月末現在)

区分	洋便器									和便器			
	(A)	(B)		(C)		(A+B+C)	うち、 多目的 トイレ等	洋便器率	(D)	(E)	(F)	(D+E+F)	
	校舎	うち、 多目的 トイレ等	体育館・ 武道場	うち、 多目的 トイレ等	屋外トイ レ	うち、 多目的 トイレ等			校舎	体育館・ 武道場	屋外トイ レ	合計	
1 下田	42	1	4	1	0	0	46	2	48.9%	33	2	13	48
1 南伊豆分校	7	0	0	0	0	0	7	0	36.8%	6	2	4	12
2 松崎	18	1	0	0	3	0	21	1	30.0%	29	4	16	49
3 稲取	19	0	0	0	4	0	23	0	30.7%	44	0	8	52
4 伊東	27	1	2	0	0	0	29	1	43.9%	25	2	10	37
4 城ヶ崎分校	26	1	0	0	0	0	26	1	41.9%	25	4	7	36
5 伊東商業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6 熱海	25	1	2	0	2	0	29	1	43.9%	28	2	7	37
7 伊豆総合	37	1	9	1	6	0	52	2	67.5%	17	4	4	25
7 土肥分校	12	1	0	0	7	0	19	1	61.3%	8	0	4	12
8 韭山	20	1	5	2	0	0	25	3	32.5%	37	7	8	52
9 伊豆中央	28	1	2	0	5	1	35	2	46.7%	27	2	11	40
10 田方農業	26	0	0	0	3	1	29	1	34.5%	38	0	17	55
11 三島南	19	1	3	1	4	0	26	2	31.3%	48	2	7	57
12 三島北	32	0	0	0	6	0	38	0	35.2%	53	0	17	70
13 三島長陵	45	1	4	1	4	1	53	3	69.7%	21	0	2	23
14 御殿場	17	1	0	0	2	0	19	1	21.6%	53	0	16	69
15 御殿場南	38	1	0	0	12	0	50	1	64.1%	15	0	13	28
16 小山	32	1	0	0	0	0	32	1	43.2%	31	4	7	42
17 裾野	28	0	0	0	5	1	33	1	49.3%	27	0	7	34
18 沼津東	48	0	0	0	10	0	58	0	59.2%	16	0	24	40
19 沼津西	26	1	0	0	6	0	32	1	35.6%	53	0	5	58
20 沼津城北	30	1	0	0	12	0	42	1	38.5%	56	0	11	67
21 沼津工業	10	1	0	0	5	1	15	2	37.5%	18	0	7	25
22 沼津商業	21	3	0	0	4	0	25	3	34.2%	32	3	13	48
23 吉原	30	0	0	0	1	0	31	0	38.3%	26	0	24	50
24 吉原工業	27	2	0	0	3	0	30	2	35.7%	50	3	1	54
25 富士	20	1	0	0	2	1	22	2	24.4%	54	6	8	68
26 富士東	30	1	0	0	4	0	34	1	44.2%	29	4	10	43
27 富士宮東	32	1	0	0	11	0	43	1	60.6%	16	0	12	28
28 富士宮北	15	1	2	1	0	0	17	2	25.0%	38	3	10	51
29 富士宮西	55	2	0	0	7	1	62	3	74.7%	0	4	17	21
30 富岳館	35	2	2	0	1	0	38	2	42.2%	36	1	15	52
31 清水東	43	2	2	0	1	0	46	2	79.3%	7	5	0	12
32 清水西	25	0	2	0	3	0	30	0	48.4%	18	1	13	32
33 清水南	39	1	2	0	4	0	45	1	71.4%	0	4	14	18
34 静岡	15	1	1	0	6	1	22	2	22.9%	54	5	15	74
35 静岡城北	23	1	0	0	4	0	27	1	26.0%	55	0	22	77
36 静岡東	37	1	1	0	3	0	41	1	48.8%	27	3	13	43
37 静岡西	29	1	0	0	10	1	39	2	50.0%	28	4	7	39
38 駿河総合	52	2	6	0	19	1	77	3	61.6%	34	5	9	48
39 静岡農業	15	1	0	0	3	0	18	1	29.0%	33	0	11	44
40 科学技術	45	5	5	1	5	1	55	7	48.7%	52	4	2	58
41 静岡商業	46	1	0	0	5	0	51	1	44.3%	44	0	20	64
42 静岡中央	37	5	0	0	0	0	37	5	47.4%	33	4	4	41
43 焼津中央	32	1	3	0	13	0	48	1	65.8%	12	2	11	25
44 焼津水産	24	1	0	0	2	0	26	1	36.6%	44	0	1	45

45	清流館	65	1	0	0	0	0	65	1	68.4%	18	4	8	30
46	藤枝東	32	1	0	0	11	0	43	1	62.3%	15	0	11	26
47	藤枝西	19	1	4	1	2	1	25	3	32.9%	41	7	3	51
48	藤枝北	18	1	0	0	8	1	26	2	24.3%	55	0	26	81
49	島田	6	0	7	1	2	0	15	1	17.0%	50	2	21	73
50	島田工業	24	2	0	0	6	2	30	4	35.7%	47	0	7	54
51	島田商業	30	1	0	0	9	0	39	1	43.3%	35	0	16	51
52	金谷	11	0	0	0	2	0	13	0	25.0%	28	0	11	39
53	川根	6	1	0	0	5	1	11	2	18.0%	35	0	15	50
54	榛原	44	8	2	0	16	0	62	8	58.5%	28	3	13	44
55	相良	26	2	0	0	4	0	30	2	21.7%	93	0	15	108
56	掛川東	33	1	2	1	1	1	36	3	48.6%	31	3	4	38
57	掛川西	56	0	4	0	18	0	78	0	100.0%	0	0	0	0
58	掛川工業	24	1	3	0	0	0	27	1	40.9%	28	2	9	39
59	横須賀	15	1	0	0	3	0	18	1	22.8%	46	0	15	61
60	池新田	28	1	0	0	0	0	28	1	30.8%	47	0	16	63
61	小笠	16	0	2	1	0	0	18	1	17.3%	67	3	16	86
62	遠江総合	55	4	0	0	2	1	57	5	64.8%	17	0	14	31
63	袋井	33	1	0	0	12	1	45	2	50.0%	31	0	14	45
64	袋井商業	14	1	0	0	7	0	21	1	27.6%	47	0	8	55
65	磐田南	20	1	0	0	0	0	20	1	22.7%	45	7	16	68
66	磐田北	19	1	0	0	0	0	19	1	21.6%	57	0	12	69
67	磐田農業	19	1	0	0	0	0	19	1	24.1%	35	0	25	60
68	磐田西	21	1	0	0	0	0	21	1	26.3%	39	0	20	59
69	天竜	47	1	4	0	7	0	58	1	59.8%	29	0	10	39
69	春野校舎	21	1	0	0	2	0	23	1	39.7%	20	3	12	35
70	浜松北	36	1	0	0	3	0	39	1	48.8%	31	4	6	41
71	浜松西	61	0	0	0	7	1	68	1	71.6%	7	0	20	27
72	浜松南	8	0	0	0	9	0	17	0	18.9%	49	0	24	73
73	浜松湖東	39	1	0	0	2	0	41	1	50.6%	13	7	20	40
74	浜松湖南	33	1	0	0	2	0	35	1	46.1%	32	4	5	41
75	浜松江之島	38	0	0	0	0	0	38	0	45.8%	34	4	7	45
76	浜松東	21	0	0	0	0	0	21	0	22.6%	54	0	18	72
77	浜松大平台	119	9	13	2	6	1	138	12	100.0%	0	0	0	0
78	浜松工業	31	0	1	0	8	0	40	0	51.9%	26	0	11	37
79	浜松城北工	12	2	2	0	1	0	15	2	22.1%	40	3	10	53
80	浜松商業	26	1	2	0	6	0	34	1	31.2%	51	2	22	75
81	浜名	44	0	1	0	0	0	45	0	43.3%	40	3	16	59
82	浜北西	26	0	0	0	0	0	26	0	38.8%	26	4	11	41
83	浜松湖北	61	3	0	0	7	0	68	3	66.7%	30	0	4	34
83	佐久間分校	27	0	0	0	2	0	29	0	43.9%	20	0	17	37
84	新居	47	7	0	0	0	0	47	7	49.5%	32	0	16	48
85	湖西	27	1	0	0	4	1	31	2	42.5%	26	4	12	42
	計	2,697	113	104	14	381	22	3,182	149	43.6%	2,925	165	1,033	4,123

### 1-3-6-2 公立学校施設(特別支援学校)のトイレ状況

(令和4年8月末現在)

区分	洋便器 (A)		(B)		(C)		(A+B+C)		洋便器率	和便器			(D+E+F)
	校舎	うち、多目的トイレ等	体育館・武道場	うち、多目的トイレ等	屋外トイレ 寄宿舎	うち、多目的 トイレ等	合計	うち、多目的 トイレ等		(D)	(E)	(F)	
1 沼津視覚	30	0	0	0	11	0	41	0	100.0%	0	0	0	0
2 静岡視覚	26	0	5	0	16	1	47	1	100.0%	0	0	0	0
3 浜松視覚	37	2	0	0	20	0	57	2	100.0%	0	0	0	0
4 沼津聴覚	53	0	0	0	29	1	82	1	100.0%	0	0	0	0
5 静岡聴覚	38	1	0	0	6	1	44	2	100.0%	0	0	0	0
6 浜松聴覚	23	0	0	0	12	0	35	0	100.0%	0	0	0	0
7 御殿場特支	56	0	6	1	8	1	70	2	100.0%	0	0	0	0
8 東部特支	60	1	0	0	3	2	63	3	100.0%	0	0	0	0
〃 伊東分校	14	2	0	0	0	0	14	2	100.0%	0	0	0	0
〃 伊豆高原分校	5	1	0	0	0	0	5	1	100.0%	0	0	0	0
9 伊豆の国特支	69	8	3	0	5	1	77	9	100.0%	0	0	0	0
〃 伊豆下田分校	6	2	0	0	0	0	6	2	100.0%	0	0	0	0
〃 伊豆松崎分校	6	1	0	0	0	0	6	1	100.0%	0	0	0	0
10 沼津特支	55	0	0	0	6	0	61	0	100.0%	0	0	0	0
〃 田方分校	6	0	0	0	0	0	6	0	-	0	0	0	0
〃 愛鷹分校	8	0	0	0	0	0	8	0	-	0	0	0	0
11 富士特支	60	2	0	0	6	0	66	2	100.0%	0	0	0	0
〃 富士宮分校	10	1	0	0	0	0	10	1	100.0%	0	0	0	0
12 静岡北特支	53	0	0	0	3	0	56	0	100.0%	0	0	0	0
〃 南の丘分校	6	0	0	0	0	0	6	0	-	0	0	0	0
13 清水特支	54	3	5	1	8	1	67	5	100.0%	0	0	0	0
14 中央特支	41	0	0	0	11	0	52	0	100.0%	0	0	0	0
15 静岡南部特支	24	0	0	0	0	0	24	0	100.0%	0	0	0	0
16 藤枝特支	96	0	0	0	6	0	102	0	100.0%	0	0	0	0
〃 焼津分校	4	0	0	0	0	0	4	0	100.0%	0	0	0	0
17 吉田特支	66	3	19	4	9	1	94	8	100.0%	0	0	0	0
18 掛川特支	59	4	4	1	7	1	70	6	100.0%	0	0	0	0
〃 御前崎分校	4	0	0	0	0	0	4	0	100.0%	0	0	0	0
19 袋井特支	55	9	0	0	3	0	58	9	100.0%	0	0	0	0
〃 磐田見付分校	6	1	0	0	0	0	6	1	100.0%	0	0	0	0
20 浜松特支	47	1	0	0	8	0	55	1	100.0%	0	0	0	0
〃 磐田分校	13	0	0	0	0	0	13	0	100.0%	0	0	0	0
〃 城北分校	11	1	0	0	0	0	11	1	100.0%	0	0	0	0
21 浜名特支	45	2	0	0	1	0	46	2	100.0%	0	0	0	0
22 西部特支	62	2	0	0	0	0	62	2	100.0%	0	0	0	0
23 みをつくし特支	84	9	5	1	3	0	92	10	100.0%	0	0	0	0
24 天竜特支	35	0	0	0	4	0	39	0	100.0%	0	0	0	0
25 浜北特支	48	2	5	1	7	1	60	4	100.0%	0	0	0	0
計	1,375	58	52	9	192	11	1,619	78	100.0%	0	0	0	0